

SEGA SAMMY GROUP

CSR BOOKLET 2019



CONTENTS

- 01 会社概要・グループ概要
- 02 編集方針・報告対象範囲・パフォーマンスデータ(連結)
- 03 TOP MESSAGE
セガサミーホールディングス株式会社
代表取締役会長グループCEO 里見 治
代表取締役社長グループCOO 里見 治紀
- 05 **特集** セガサミーグループの「ダイバーシティ経営」ダイアログ
多様性を「当たり前」に変え、誰もが笑顔になれる社会の実現を目指す
- 07 セガサミーグループの復興支援活動
- 11 マネジメント
- 21 お客さまとともに
- 28 お取引先とともに
- 33 社員とともに
- 40 株主・投資家とともに
- 42 社会とともに【環境】
- 46 社会とともに【社会貢献】

会社概要 **SEGA**Sammy

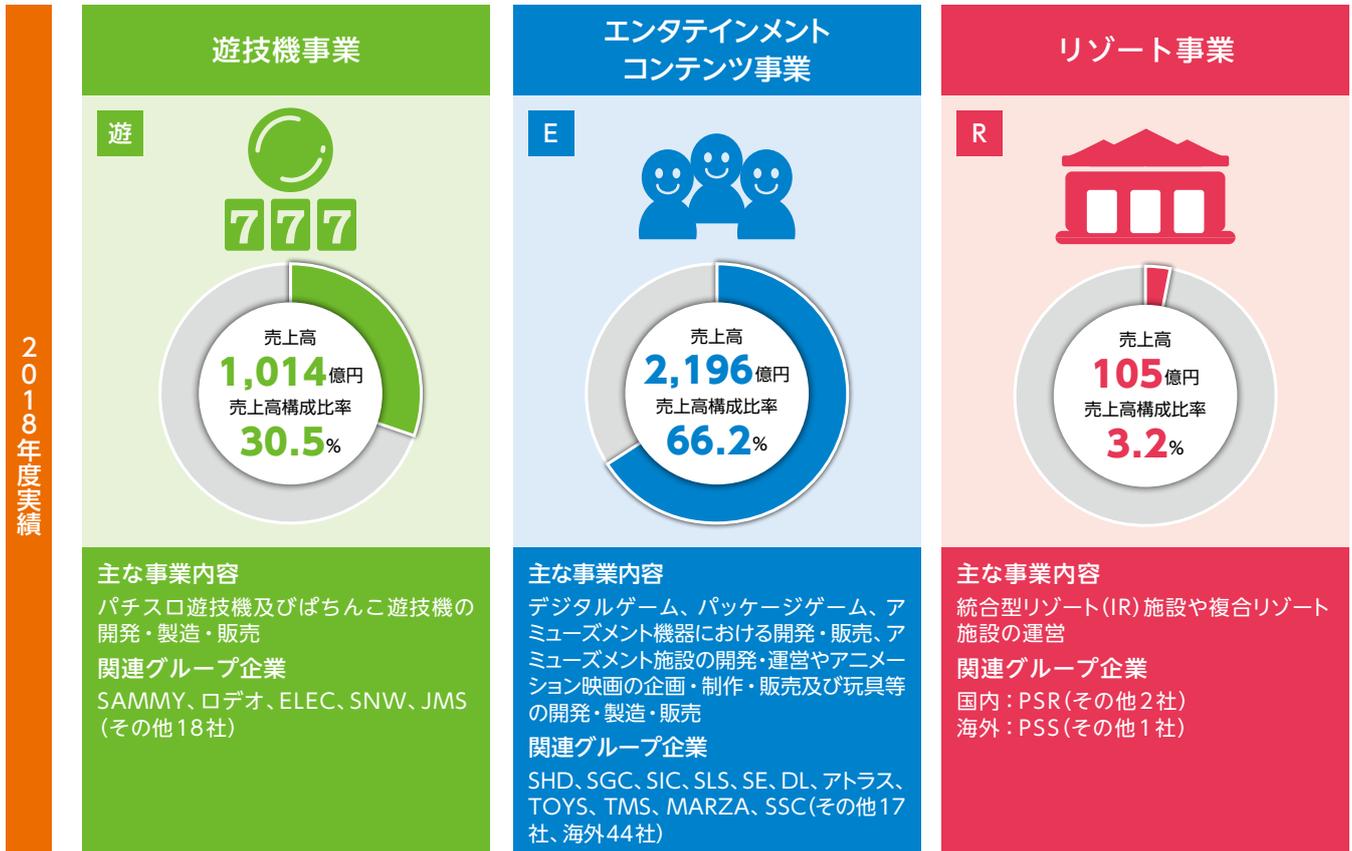
HOLDINGS

社名	セガサミーホールディングス株式会社	代表取締役会長グループCEO	里見 治
本社所在地	〒141-0033 東京都品川区西品川一丁目1番1号 住友不動産大崎ガーデンタワー	代表取締役社長グループCOO	里見 治紀
設立	2004年10月1日	事業内容	総合エンタテインメント企業グループの 持株会社として、グループの経営管理 およびそれに附帯する業務
資本金	299億円	社員数	7,993名(連結)

2019年3月31日現在

グループ概要

セガサミーグループは、幅広い領域で事業展開する総合エンタテインメント企業グループとして、大人から子どもまであらゆる年代のお客さま、国内、海外のお客さまに感動体験を創造し続けています。



* 内部調整売上高が含まれています。

編集方針

セガサミーグループのCSR活動の取り組みを様々なステークホルダーの皆さまに報告し、コミュニケーションを図りながら活動と情報開示を充実させていくことを目的として発行しています。統合レポートに特に投資家の重視するESG情報が掲載されたことをうけ、2018年より統合レポートに掲載されていない項目やCSRの観点でより深く報告すべき項目を掲載するようしております。また社員のVOICEコーナーを充実させセガサミーグループの事業や取り組み、働き方をより具体的に感じていただけるようにしました。

【参考にしたガイドライン】

GRI「サステナビリティ・レポート・スタンダード2016」
ISO26000(社会的責任に関する手引き)

【発行時期】

2019年9月
(前回発行：2018年9月、次回発行予定：2020年9月)

報告対象範囲

【対象期間】

2018年度(2018年4月1日～2019年3月31日)
一部対象期間外の活動も時期を明示して掲載しています。

【対象組織】

セガサミーホールディングス(株)、(株)セガホールディングス(主な事業グループ会社を含む)、サミー(株)

【掲載されている略称の説明】

(各セグメント)

遊=遊技機事業、**E**=エンタテインメントコンテンツ事業、**R**=リゾート事業、**グループ**=セガサミーホールディングス(株)、エンタテインメントコンテンツ事業、遊技機事業およびリゾート事業

・一部、その他のグループ会社も対象組織に含まれる活動があります。

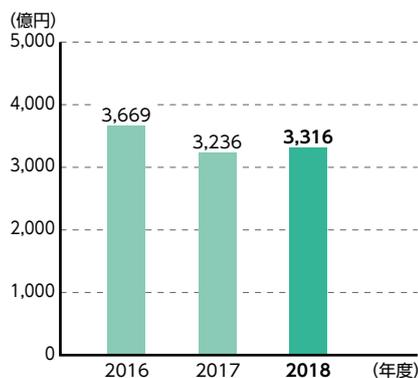
※ 所属・肩書は取材当時のものです。

(各セグメントの主要企業)

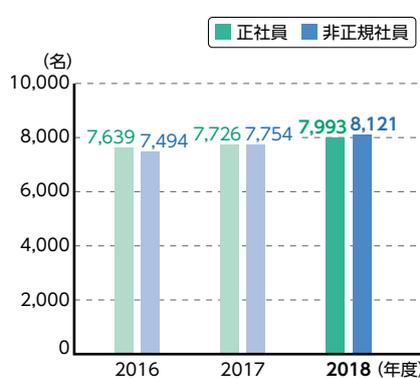
SSHHD:セガサミーホールディングス(株)、**SHD**: (株)セガホールディングス、**SAMMY**:サミー(株)、**TOYS**: (株)セガトイズ、**TMS**: (株)トムス・エンタテインメント、**SNW**: (株)サミーネットワークス、**PSR**: フェニックスリゾート(株)、**SE**: (株)セガ エンタテインメント、**SIC**: (株)セガ・インタラクティブ、**SGC**: (株)セガゲームス、**アトラス**: (株)アトラス、**ELEC**: タイヨーエレクトリック(株)、**SLS**: (株)セガ・ロジスティクスサービス、**DL**: (株)ダーツライブ、**MARZA**: マーザ・アニメーションプラネット(株)、**JMS**: ジェイエムエス・ユナイテッド(株)、**OP**: (株)オアシスパーク、**銀座**: (株)銀座、**ロデオ**: (株)ロデオ、**SSC**: セガサミークリエイション(株)、**BTF**: (株)バタフライ、**PSS**: (株)パラダイスセガサミー、**SSGE**: セガサミーゴルフエンタテインメント(株)、**JNEXT**: ジェイ・ネクスト(株)

パフォーマンスデータ(連結)

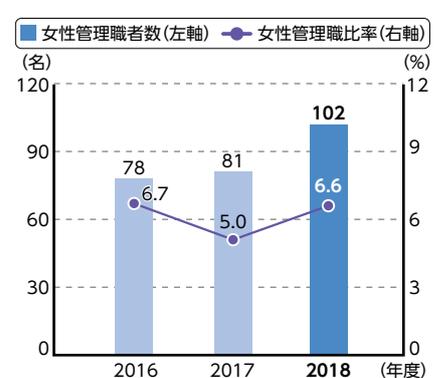
● 売上高(連結)



● 社員数



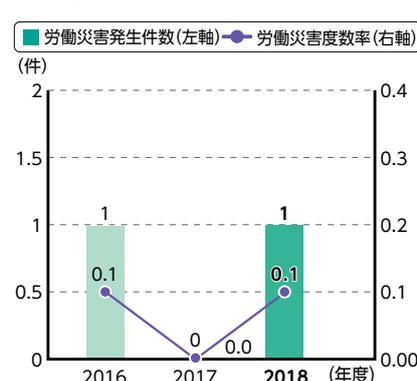
● 女性管理職者数・管理職比率^{※1}



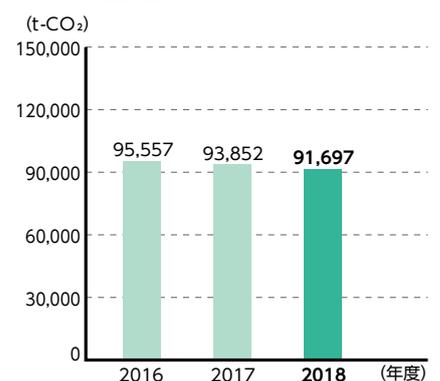
● 育児休業取得者数・復職率^{※1}



● 労働安全衛生^{※1}



● CO₂総排出量^{※2}



※1 社会性データについては、対象範囲・集計方法を一部変更しています。詳しくはP.39を参照ください。

※2 環境データの集計方法と対象範囲については、P.45を参照ください。



総合エンタテインメント 企業が果たす 社会的責任と社会貢献の形

セガサミーホールディングス株式会社
代表取締役会長グループCEO

里見 治
(Satomi, Hajime)

感動体験を創造し続ける革新者

成熟した社会にとって、エンタテインメントは必要不可欠なものです。セガサミーグループはグループミッションである「感動体験を創造し続ける ～社会をもっと元気に、カラフルに。～」を実現するため、80を超えるグループ会社が一丸となり事業を展開しています。

テクノロジーの飛躍的な進歩による情報社会の高度な発展は、エンタテインメント業界に遊びの多様化をもたらしました。

業界の垣根を越えて競争が激化する中で、社会の期待を超える価値を提供するためには、遊技機・エンタテインメントコンテンツ・リゾートの各事業が業界における「革新者」となり、変化を恐れず改革を続けていく必要があります。

時代にあった良質なエンタテインメントは、あらゆる人に喜びや勇気といった感動体験を提供するものと信じ、当社グループでは、社員の意識改革にも取り組み、イノベーションの創出を図っています。

人財交流が生む新たな価値

2018年8月、本社機能を集約し、これまで東京近郊に点在していたグループ会社20社、約6,500人の社員を大崎の新オフィスに集めました。各グループ会社が持つ文化を融合し、セガサミーグループとしての文化を醸成したい考えです。また、経営効率の向上やグループ会社間の人財交流の活性化による連携強化、シナジーの創出を狙いとしており、本社機能が集約されたことで、さらなる成長につながることを期待しています。

グループ各社の管理部門は、担当部署ごとと同じデスクで仕事をしているほか、各社の部長・役員は、私を含め今まで以上に活発な情報交換を行っています。また社員食堂は、夜間はバーとしても利用可能なため、社員がリラックスした雰囲気の中で仕事の話をする機会も生まれています。こうした各社、各層でのさまざまな形の交流は新しいアイデアを生み、また既存ビジネスの成長を促します。こうした相互理解の推進と

グループの一体感醸成によって、強固な人財・事業の基盤を固めていきます。

さらに、社員個人が持つ能力の向上や自己実現が業務の創造性や生産性の向上につながると考え、2018年4月から副業を解禁しました。これまでとはちがう視野で自身の世界を広げ、「革新者」として当社グループの価値向上に寄与することを期待しています。

社会とともに持続可能な発展を目指す

日本の新たな産業として期待される統合型リゾート(IR)事業の実現に注力しています。ホテルや商業施設、レストラン、劇場、コンベンション施設、カジノなどからなるIRを実現することは、新たな雇用の創出、インバウンドの増加に伴う国内・地域経済の活性化と財政の改善、国際競争力の強化といった、さまざまな好影響を生みます。日本企業である私たちがIR事業を手がけ、国内の産業力強化につなげるため、参入に向けた最大の努力を続けていきます。

一方で、カジノはギャンブル依存症を増加させるのではないかとの社会的課題が懸念されていますが、こうした課題についてもしっかりと向き合うことが事業者の責務です。2018年から、ギャンブル依存症発症のメカニズム解明に向けた共同研究を京都大学と開始しました。海外カジノ施設におけるプレイデータを分析し、危険な賭けに至る前の兆候を明らかにします。国内IR事業者となった際にも、この結果を活用し、ギャンブル依存症の発症・進行・再発の防止策を講じていきます。

国連によって「持続可能な開発目標(SDGs)」が採択されたことから、昨今、企業には社会的責任を果たし、持続可能な社会の実現に貢献することが求められています。こうした要請を踏まえ、自社の事業が社会にどう捉えられ、またどのように発展することが社会貢献に寄与することになるのかという視点を持たなければなりません。その上で社員一人ひとりが、世界に誇れるエンタテインメント企業となることを目指し、グループ一丸となって進んでいきます。

持続可能な企業として 「王道」の歩みで目指す 責任と覚悟

セガサミーホールディングス株式会社
代表取締役社長グループCOO

里見 治紀
(Satomi, Haruki)



「正」の感動体験とともに「負」と向き合う

2019年5月、世界保健機関(WHO)が、オンラインゲームなどへの過度な没入により、生活や健康に深刻な影響が出た状態を「ゲーム障害」(ゲーム依存症)と呼び、精神疾患に位置付けることを正式決定しました。ぱちんこ・パチスロ、カジノにおいても依存症を問題視する見方があります。しかし、私の持っている「エンタテインメントには、人々に日々の生きる活力を与える力がある」という信念に変わりはありません。

エンタテインメントが社会に与える「負」の側面には、真正面から向き合い、真摯な姿勢で対応を進めていかなければなりません。しかし同時に、「正」としての「感動体験」、すなわち、お客さまの期待以上の価値を提供していくことを続ければ、Missionで掲げる「社会をもっと元気に、カラフルに。」の実現が可能だと考えています。この両輪によって私たちが社会に「必要とされる存在」として求め続けられることができると信じています。

こうした考え方は、「世間から後ろ指を指されるような振る舞いをせず、たとえ遠回りだとしても、長期的な利益を追求し、「王道」を歩いていく」という姿勢の当グループが、持続可能な企業として歩みを進める確固たる道筋となります。

責任と覚悟を持ち、社会に貢献

当グループが進める国内IR事業への取り組みは、グループが長期持続的な発展を実現していくための挑戦であるとともに、IRによる日本の産業創出と経済の活性化を目指すことでもあり、社会的に大きな意義を伴います。

こうしたことから当グループは、「責任と覚悟」を持って取り組みを進めています。例えば、2017年の米国ネバダ州におけるゲーミング機器製造・販売ライセンスの取得では、当グループの清廉性を認めていただくため、財務・税務情報とともに調査対象となる役員個人の資産もすべて開示しました。また、「ギャンブル依存症」対策では、多くの企業が「回復」

に対するアプローチを行っているのに対して、世界初となる「予防」をコンセプトに京都大学との産学共同研究を進めています。

思い返せば、当グループの国内IR事業への挑戦は2012年、日本有数の複合施設を運営するフェニックスリゾート(株)の株式取得から始まりました。2017年に韓国初の本格的IR施設「パラダイスシティ」を開業、カジノとホテルをオープンし、2018年には、ショッピングモールやスパ、エンタテインメント施設などを備えた真のIR施設となり、オープン以来、国内外の多くのお客さまから高い評価をいただいています。

当グループは、IR施設を運営する世界の名だたるオペレータと同じ立場に立つことができる力を有する唯一の日本企業だと自負しています。これからも私たちが果たすべき責任に覚悟をもって取り組み、日本におけるIRの事業化に向けた準備を進めていきます。

エンタテインメントの力で社会的要請に応える

当グループの事業が社会に及ぼすインパクトを低減するための努力は、これだけではありません。サプライチェーン上の児童労働・強制労働の根絶に向けた取り組みや、含有化学物質の管理徹底、さらに社会的価値と経済的価値の両立を実現する取り組みといえる遊技機事業のリユースなども進めています。

これまで以上に、エンタテインメント企業としての責任が問われているいま、「必要とされる存在」として求め続けられるために何をすべきか。SDGsをはじめとする社会的要請への対応を、成長機会への施策に組み込んでいきたいと考えています。例えば、超少子高齢化社会といった課題には、エンタテインメントの力で活力を提供し、解決に役立てるといった、本業を通じた貢献を行うことができます。

セガサミーグループは、これからも「王道」を歩み、「感動体験」を持続的に世の中に提供し続けていきます。そのためにも一人ひとりが課題を真摯に認識し、その解決に危機感を持って臨んでいきます。

多様性を「当たり前」に変え、誰もが笑顔になれる社会の実現目指す



セガサミーグループはダイバーシティ経営の推進を重要課題と捉え、「グループCSR憲章」や「グループ行動規範」においても真摯に取り組むことを掲げています。多様な人財がそれぞれの力を最大限に発揮し、お客さまが望む以上の感動体験を創造し続けるために必要なことは何か。里見治紀代表取締役社長グループCOOと、それぞれ異なるバックグラウンドを持つ社員5人と意見を交わしました。

さまざまな取り組みや制度の推進

- テレワークなどの導入
- 「セガサミーそらもり保育園」の開園
- LGBT支援制度や設備の導入
- 介護休業制度のさらなる拡充検討

多様な発想・意見を出しやすくする環境づくりを目指して

——ダイバーシティに関して、今後会社に期待することは

田畑 第2子出産に際し、テレワークを利用しました。家族との時間が増え、実にありがたい制度だと実感しました。通勤にあてる時間がなくなるだけでも疲れが軽減し、作業効率も上がりました。けれど「ちゃんと仕事しているのか」と思われなかなどといった不安から、利用しにくいと感じている方もいるようです。そういった雰囲気は払しょくし、誰もが気軽に利用できるようになればと期待しています。



セガサミーホールディングス(株)プラットフォーム部

田畑 智昭
(Tabata, Tomoaki)

2019年5月に第2子が誕生。パートナーの里帰り出産に伴って1週間ほどテレワークを利用

涌井 私や私より上の世代は「女性は家庭」というところがあって、これまでは社内でも「女性活躍」というチャンスが少なかったように感じます。今後は子育てなど時間の制約がある中で成果を出している人を評価する仕組みが、もっと増えてくれれば嬉しいですね。

江川 今ほどLGBTという考えが広まっていなかった25年ほど前、20代前半のころは、つらい経験もしました。そんな中、赴任先のサンフランシスコで文化や人の多様性を学びました。入社時にカミングアウトしていますが、2年前に帰任した際、うまくやっていけるのか不安がありました。けれど、若い世代を中心に巻き取り空気が変わったことを強く感じました。



セガサミーホールディングス(株)グループ総務統括部

江川 徳義
(Egawa, Tokugi)

幼少期はLGBTであることに悩むも、後進への道づくりのため積極的に声を上げることを決意し、ダイアログに参加

押川 以前は障がいがある方に対して「この仕事はできない」と、先入観から業務内容を制限する風潮がありました。しかし、実際に作業に取り組んでもらうとそういったことはなく、能力の高い方も多くいます。男性だから女性だから障がいがあるからではなく、本当に能力のある方が評価されるようになって感じています。

デビッド 新入社員として実感したことをお話しします。就職活動時は海外在住だったのですが、採用面接のやり取りは最初からメールやビデオ通話アプリを使うなど、とてもフレキシブルに対応していただきました。米国・欧州からの中途採用も多く、多様な人財が集まっていると感じます。自分自身も含めて、さまざまな人にとって働きやすい環境だと思います。

里見 世間的にテレワークをしたら生産性が落ちる、育児中の女性や障がいがある方には一定程度の仕事しか任せられない、外国人採用に不安があるなどの考えは残っています。また、LGBTに対する正しい理解が進んでいるとはいいたい状況です。女性活躍も障がい者雇用も法定数値を上げることが目標でなく、誰もが「働き続けたい」と思える職場にすることが重要です。



セガサミーホールディングス(株)
代表取締役社長グループCOO
里見 治紀

LGBTに関して言えば、社を挙げてサポートすることを対外的に宣言していますし、今後も積極的に

LGBTを支援する行動を進めていきます。

また、超少子高齢化が進む中、今後はセガサミーグループにおいても介護を理由とした休職・退職が増加すると考えられます。そして、その問題には、男性の育児休業取得が役立つと考えています。男性社員には数日だけ休んでパートナーを休ませる、というのではなく、積極的に育児に参加し、子どもやパートナーと良好な関係を築いてほしいと思います。良好な家族関係があれば、介護が必要になった際にも理解や協力も得られやすくなり、貴重な人材の流出を防げるのではないのでしょうか。

多様な社員が多様な働き方で活躍している環境では新しい発想や意見が出やすいものです。そのような環境づくりが会社の力につながります。

「ダイバーシティに先進的に取り組む企業」を目指して

——セガサミーグループの一員として、

今後ダイバーシティとどう向き合っていきますか

田畑 本日参加して「ダイバーシティ」は身近なものだと感じました。子育てなどで特定の曜日は早く帰らないといけないとか、体調が悪くて休みがちだとか、さまざまな境遇の社員がいます。そういう中で自分たちが、あるいはチームとしてできることはなんだろうと考え、互いを尊重し、理解することは重要だと改めて感じました。

押川 セガサミーグループの一員となってから、トップが定期的に現場を訪れ、社員と直接触れ合う機会が増えたことで、社員が以前にも増していきいきと働いてくれていると感じています。彼らには彼らの普通の生活があり、それをしっかり守っていけるよう、会社としてもケアをしていきたいです。



セガサミー
ビジネスサポート(株)
宮崎事業所長
押川 敏治
(Oshikawa, Toshiharu)

全従業員30名中14名が重度の知的障がい者が働く特例子会社の責任者として、場を束ねる

涌井 「意見の多様性」を受け入れて、いろいろな考えの中で最終的にこうしよう、という意見を正直に出せる環境を整えば一番いいと思います。「女性」を強調しましたが、今以上に女性も男性も関係なく、自分が望むライフ

スタイルやキャリアが選択できる会社であってほしいと思います。

江川 カミングアウトをした当時は恐怖心もありましたが、今は社会も会社も、LGBTをはじめとする多様な価値観を受け入れる風土づくりができてきたと感じています。あとは私自身が自分を強く持って活躍していかなければならない、という気持ちが高まってきた以上強くなりました。



セガサミーホールディングス(株)
法務部
涌井 円
(Waku, Madoka)

海外法務課長として業務に従事しつつ、小学1年生の母親としても日々奮闘中



(株)セガゲームス 運営部
カステジャノス アナヤ
デビッド ケン
(Castellanos Anaya
David Ken)

2019年度新入社員。日本生まれ、米国育ち。日米の生活でダイバーシティについて、さまざまな体験を持つ

デビッド 同期同士の会議でも自分の発想はみんなと少し違っているとされることもあるのですが、きょうの話の中でその「ズレ」こそが新しい力を生むということを改めて感じました。考え方の個性を恐れず、空気を壊してでも、少しずつ新しい風を吹き込んでいけたらと思います。

里見 私もサンフランシスコで働いていたことがありますが、アメリカでは、さまざまな人がいるのが当たり前で、それを多様だとは思っていません。セガサミーグループの目指すダイバーシティとは、今現在において「多様だ」といわれているものを、将来的に「当たり前」の状態に変えていくこと、すなわち「今の非常識を将来の当たり前に変えていく」ということです。

人はその場の空気や雰囲気支配されがちです。私の役目はその空気をあえて読まずに打破し、社員のみなさんを導いていくことです。5年後、10年後を振り返ったとき、劇的に会社が変わったと思ってもらえるよう「ダイバーシティに先進的に取り組む企業」を目指していきます。そのうえで、総合エンタテインメント企業ならではの感動体験を生み出し、誰もが笑顔になれる社会を実現します。



笑顔 😊 元気 😊 を届ける！ セガサミーグループの

復興支援活動

東日本大震災発生直後から、セガサミーグループは様々なかたちで継続的に被災地支援を行ってきました。変わりゆく被災地の支援ニーズにエンタテインメントの力で応えるべく、これからも感動体験を届ける活動を続けていきます。

被災地応援イベント&社員ボランティア

2018年度は宮城県南三陸町、東松島市、女川町、七ヶ浜町にて、イベント出店を実施。イベントでは、「スマートボール」「キラデコシールアート」「ダーツ工作体験」「フラッシュパッド」「UFOキャッチャー」「パンダコパンダ」「クラブスマートボール作り教室」「プログラミング教室」などセガサミーグループのリソースを活用した遊戯コーナーのほか、社員による「創作綿あめ」を用意し、多くの方々に楽しんでいただきました。また9月には、元・東北楽天ゴールデンイーグルス投手の斎藤隆氏を迎え、女川町内の中学野球部の生徒を対象に「セガサミーグループ野球教室」を、12月にはリオデジャネイロオリンピックメダリスト松田丈志氏とともに「水泳教室」を七ヶ浜町、東松島市にて開催しました。



活動アラカルト (2011年3月～2019年3月まで)
⇒2019年度活動継続

支援金	社員ボランティア活動&応援イベント		
	回数	参加人数	来場者数
約4億円	計94回	のべ1,157名	のべ29,732名 <small>(セガサミーグループコーナーステージ者数)</small>

【地方創生 in 七ヶ浜町】
サミー(株) PCサウンド研究開発部
中村 仁 (Nakamura, Hitoshi)

七ヶ浜町の町長、政策課、観光協会の方から現状やこれまでの取り組みを聞かせていただき、菖蒲田浜海水浴場をはじめ、周辺を見学しました。菖蒲田浜の防潮堤の上を歩いた時は本当に気持ち良く、眺め、風、空気感は格別でした。

普段はぱちんこのサウンド制作や各種ディレクションなどをメインに業務を行っており、企画的要素が求められる今回、自分に何ができるのか疑問に思いながらも、自分なりの、そして同じグループになったメンバーとアイデアを絞って協力し、限られた時間の中で一つの未来図を形として提案することができたように思います。今回提案した場所が数年後どのようなになっているのか、また七ヶ浜町を訪れたいと思います。



【おながわ秋刀魚収穫祭2018】
(株)セガゲームス 営業管理部 織田 葉子 (Oda, Yoko)

当日はUFOキャッチャーのアテンドを担当しました。小雨が降っていたこともあり、あまりお客さまがいらっしゃらないのかと思いましたが、始まってすぐにお客さまがいらっしゃり、それ以降は常に10メートル程度の行列になりました。アテンド中、お客さまの景品が取れるまでのドキドキ、取れた瞬間の喜びが伝わり、自分が昔、セガサミーのエンタテインメントに触れて感じた楽しさを思い出しました。印象に残っているのは、親子でいらっしゃったお母さまから「子どもがUFOキャッチャーを好きになった」というお言葉で、セガサミーのファンを増やせたことが大変嬉しく感じられました。また、グループ内のほかの会社の方とも交流ができ、セガサミーグループとしての一体感が感じられたとても価値のあるイベントでした。



【セガサミーグループ「野球教室」with斎藤隆】
(株)セガトイズ 国内営業本部

大月 将平 (Otsuki, Syohei)

東日本大震災から7年。津波で甚大な被害を受けた宮城県女川町にうかがいました。駅前などは整備が進み、街並みは綺麗になっているとはいえ、まだ所々で震災の爪痕が残っていました。そんな中、「セガサミーグループ「野球教室」with斎藤隆」にセガサミー野球部OBとして参加し、



貴重な経験をさせていただきました。野球教室に参加してくれた中学生の皆さんが元気に野球に取り組む姿勢を見て、逆に私が元気をもらいました。教室の最後に「何も挫折もなく育った人間より、何か挫折を味わって苦しい思いをしてきた人間の方が絶対に強い」と斎藤隆さんが仰っていました。私自身もこの言葉を胸に刻んで生きていきたいと思いました。

【七ヶ浜町生涯学習フェスティバル2019】
(株)セガゲームス エンタテインメントコンテンツ事業本部
第2事業部サウンドセクション
瀬上 純 (Senoue, Jun)

イベント運営に関しては、事前準備の段階から参加者全員が率先して積極的に声を掛け合いつつ進行し、当日も、楽しく居心地の良い空間を生み出そうと、どの場所においてもスタッフと来場者が会話を交わしているような和気あいあいとした雰囲気の中、あっという間に時間が過ぎました。未就学児の小さなお子様から、お孫さんと一緒に来場される年配の方まで、幅広い年齢層のお客さまをもて

なそうというスタッフの熱量は、来場されたお客さまにも伝わったと思います。今後もグループメンバーとの活動を通じて、各々のフィールドに持ち帰ることができると感じました。



【南三陸町産業フェア2018】
(株)セガエンタテインメント
オペレーション統括本部 中日本営業部
小竹 進 (Kotake, Susumu)

何か社会に貢献したいと考えても、自分1人の力ではなかなか実行に移しにくいのですが、このような活動を会社として実行しているので、非常にやりやすいと実感しました。

自分自身がやってきた人を喜ばせるためのノウハウを十分に発揮し、そのことで地域の人たちが笑顔になって喜んでいただく。ボランティアのテーマは被災地のあらゆる方に“感動体験を届ける”ことですが、その感動体験は地域の人に届けるだけでなく、地域の人から自分自身にも共有されるものだと感じました。この気持ちをいつまでも忘れることなく、今後も自分自身やほかの社員も巻き込んでまた参加したいと思いました。今回は、貴重な経験となりました。



【メリークリスマスin東松島2018】
インフィニートーク(株) BPO事業本部BPO運営部
上田 時則 (Ueda, Tokinori)

今回初めて参加させていただきました。自然豊かなこの土地が津波で被害を受けたとは思えない綺麗なところでした。大曲市民センターで担当ごとに来場者の導線や景品を準備し、当日を迎えました。

私はスマートボール担当で、家族で楽しそうに小さなお子様も目を輝かせながら遊んでいる姿を見て「本当に来て良かった！」と思った瞬間でした。1時間以上かけてきた家族や、毎年楽しみにしているお子様が欲しい景品をゲットするために何回も並んでいるのを見て、自然に笑顔になっている自分が逆に幸せをもらった気分になりました。今回小さなお子様からご年配の方までさまざまなコミュニケーションを経験させていただき、次回も是非貢献したいと思いました。



【セガサミーグループ水泳教室with松田丈志2018】
(株)セガゲームス CS業務部セガ倫理チーム
徳丸 邦彦 (Tokumaru, Kunihiko)

松田丈志選手の水泳教室のお手伝いをさせていただきました。

私も子どものころスイミングクラブに通っていたこともあり、水泳は大好きなスポーツです。松田選手がセガサミー所属になるずっと前、絶対的なパワーが必要な中長距離の自由形やバタフライで世界のトップと互角に競う姿を見て、すごい選手が現れた！と興奮したことを覚えています。参加してくれた子どもたちに、「できる」と自分を信じてチャレンジすることの大切さを熱く語る姿に胸が熱くなりました。また、熱心に話を聞き、質問をしていた子どもたちの姿にも感心しました。彼らにはとてもいい人生の糧になったと思います。自分自身にとっても楽しく、とても勉強になった2日間でした。



【東松島夏まつり2018】
サミー(株) 生産統括本部
生産企画本部生産企画部生産企画GR
堀 宏次 (Hori, Koji)

今回初めて参加させていただきました。イベント当日はスマートボールを担当しましたが、ボールの行方を追う子どもたちの真剣な眼差しや、穴に入る瞬間の喜びと一緒に体験することができました。777がそろそろ「サミー賞」は10名程度でしたが、出た瞬間は大きな歓声が響き渡りました。

参加して良かったと思った点は、業務上関わりがなかった方々と同じ目標に向かって活動ができたことです。来店してくださった方々に笑顔をお届けするため、何かをしたい！という思いのもと、体が動いていました。この経験をグループ内で共有し、参加者の輪を広げていきたいです。



2019年度新入社員研修

グループ新入社員研修の一環として、2013年度より被災地を2泊3日で訪問しています。2019年度は202名の新入社員が被災地(宮城県女川町、東松島市、七ヶ浜町)を訪問。女川町長、東松島市の副市長の講話、旧大川小学校の視察、そして地域住民との交流も行い、最終日は七ヶ浜町への復興施策プレゼンを行いました。



サミー(株)
落合 春菜
(Ochiai, Haruna)

被災地研修でたくさんの方にお話ししていただきましたが、皆さんとてもポジティブで前向きな考えを持っていることに感動しました。女川町長の講話で「震災で多くの被害を受け、失うものも多かったけれど、震災があったからこそ出会えた人達もいる」という言葉が心に響きました。震災という経験を思い出すだけでも辛いことなのに、私たちに伝えてくださった宮城県の方々のためにもこの研修を無駄にしないよう、私自身が今できることをしっかり考えていこうと思いました。

実際に被災地を訪問して思ったことはテレビや新聞、記事などを見て想像していたより酷く、避難場所に指定されているところも予想を上回る地震、津波の被害で言葉が出てきませんでした。その中で、自分だったらどう動いたかなどの質問に考えさせられました。私だったら指定されている避難場所へ移動し安心してしまおうと思います。研修を通じて学んだことは、何事にも「予想を上回る想像力を持って臨む」ということです。今回の研修で学んだことを、今後にしっかりつなげていきたいです。



フェニックスリゾート(株)
平坂 将真
(Hirasaka, Syoma)



(株)セガ・インタラクティブ
岡田 紗也加
(Okada, Sayaka)

旧大川小学校を訪れ、ニュースで見た時に感じた「逃げられたのではないか」という思いが、いかに見当違いか身をもって実感させられました。実際に逃げるルートなどなく、経験したことがないほどの震災の中、教師の方々は逃げるルートを冷静に判断することさえ難しいと感じました。また人のために必死で努力する方々を見て、自分が生きる意味、働く意味を再度考え直すきっかけにもなりました。親切に話してくれた語り部さんの方々、この土地の良いところを伝えてくれた方々に出会い、またその人たちのために、何かしたいと強く思いました。

今回の研修で、現地の方の声や状況を見て、感じて、どれほど大きな出来事であったのかということを知りました。特に、女川町を訪れた際、あまりにも綺麗で整然とした街並みを見て、復興の進み具合を認識したと同時に、それほど綺麗な街並みを整えられるほど、一度全てが破壊され尽くしてしまった、ということがかえって脳裏に浮かびました。また、直接被害に遭われた方の親しい方や親族を失ったお話をお聞きし、東日本大震災という大きすぎるほどの出来事をより身近に感じる事ができました。



(株)アトラス
谷坂 元優
(Tanisaka, Yukihito)

平成30年7月豪雨(西日本豪雨) セガサミーグループ社員ボランティア&応援イベント報告

2018年6月28日から7月8日にかけて西日本を中心に、河川の氾濫や洪水、土砂災害などの被害において、被災された方々に心よりお見舞いを申し上げます。セガサミーグループ各社有志社員による現地でのボランティア活動に加え、子ども向けイベントへの協力も行いました。

平成30年7月豪雨 社員ボランティア

- 第1回：9月11日(火)～9月14日(金) 参加人数14名
- 第2回：9月19日(水)～9月21日(金) 参加人数12名
- 第3回：9月25日(火)～9月28日(金) 参加人数10名



VOICE

サミー(株) 広島支店
営業本部 営業統括部 広島支店 第一営業GR 広島営業所
北川 勝幸 (Kitagawa, Katsuyuki)

被災された岡山県真備町に復興支援活動として参加させていただきました。ほかのボランティアさん達と連携をとりながら3日間お手伝いをさせていただきましたが、真備町全体の復興を思えば相変わらず微力だなと感じながらも、「微力でも無力ではない!」の言葉で頑張ることができました。作業に関しては家財が浸水で濡れていることもあり、普通の量であっても水分を含み異常な重さになって、搬出に関してはかなり苦労しました。そんな中でもほかのボランティアの方々との連携などもあり、3日間で8割程度の家財搬出と清掃ができました。今後も場所を問わず参加できる機会があれば、微力ながらお手伝いしていきたいと思えます。

VOICE

(株)セガトイズ
ハイターゲット企画開発部
下川 智 (Shimokawa, Satoshi)

朝礼で“真備町の皆さんの笑顔を見るためにがんばろう!”と参加した社員同士で結束を固め、イベントに臨みました。私はUFOキャッチャーを担当し、お子さんからおじいちゃん・おばあちゃんまで、とにかくぬいぐるみを持ち帰ってもらえるように、また、楽しく遊んでもらえるように努めました。ぬいぐるみを手に入れた瞬間のおばあちゃんのうれしそうな笑い声が忘れられません。イベントを通して真備町の皆さんと笑顔と笑い声と歓声を共有することができました。このイベントが、さらなる復興の一助になっていれればいいです。また会社の垣根を越え、セガサミーグループの名のもと力を合わせ活動できたことを誇りに思います。

「まび新春まつり」社員ボランティア応援イベント

2019年2月17日(日) 参加人数11名 来場者814名



宮城県七ヶ浜町と地方創生に係る包括的連携協定を締結

— 七ヶ浜町 × セガサミーグループ「地方共創」プロジェクト始動 —

セガサミーホールディングスは、2019年6月17日に宮城県七ヶ浜町と地方創生に係る包括的連携協定を締結しました。セガサミーグループの人財を7月1日より七ヶ浜町へ派遣し、地域創生、活性化に関わる各種事業の企画・推進を図っていきます。

セガサミーグループは、東日本大震災発生直後より、被災された方々が一刻も早く日常生活へ戻れるよう、社員ボランティアによる復旧支援活動、また、エンタテインメント企業として、当グループの製品、サービスなどを活用した地域イベントを開催するなど、被災地の方々が笑顔で、前向きに復興に取り組むためのサポート活動などにも取り組んできました。

そして、震災発生時より時間が経過していく中で、新しい方法、新しい枠組みで復興にお役立ちしたいとの思いから七ヶ浜町と協議を重ね、セガサミーグループ初の自治体との地方創生に関わる連携協定を締結に至りました。セガサミーグループでは、今後も感動体験を創造し続けることでさらなる事業の成長を図るとともに、持続可能な社会の形成に寄与すべく、SDGsの推進など、様々な社会課題の解決に向けて取り組んでいきます。



マネジメント

セガサミーグループの理念体系

グループミッションピラミッド

セガサミーグループは、オリジナリティ溢れるエンタテインメントを通じて感動体験をご提供するという考えのもと、国際社会の一員であることを強く意識し、様々なステークホルダーとコミュニケーションを図りながら、「良き企業市民」として社会からの倫理的・公共的な期待に応え、社会の持続可能な発展に寄与する価値の提供に取り組んでいます。また、事業活動に留まらず、芸術・スポーツをはじめとする文化の発展支援など、グループ全体で様々な社会活動を継続的に実施し、社会をもっと元気にカラフルにすることで、「豊かな社会の実現」と「文化の創造」を目指します。

2017年にはグループミッションを策定し、その浸透を図るためグループおよびグループ各社のミッションピラミッドを策定しました。ミッションピラミッドは、ミッション(使命・存在意義)、ビジョン(ありたい姿)、ゴール(中長期目標)からなり、最終的には各事業部門や社員個人の目標までリンクすることで、異なる事業・業務環境のもとでもベクトルを合わせ、一体となって持続的な成長を行う道標となるものです。

グループミッション 感動体験を創造し続ける ～社会をもっと元気に、カラフルに。～

「創造は生命(いのち)」、「積極進取」という価値観を共有しつつ、常に革新者として世界中のあらゆる人々に感動体験を提供し続けます。社会をもっと元気に、カラフルにすることで豊かな社会の実現と文化の創造に貢献します。



グループCSR憲章  <https://www.segasammy.co.jp/japanese/pr/commu/csr/>

グループ行動規範  https://www.segasammy.co.jp/japanese/pr/commu/csr/gr_csr/

グループ・マネジメントポリシー  https://www.segasammy.co.jp/japanese/pr/commu/csr/gr_policy/

グループ・ガイドライン  https://www.segasammy.co.jp/japanese/media/file/pr/commu/csr/20141101_supplychain_csr.pdf

「危機管理」「ITセキュリティ」「クラウドサービス利用」「SNS利用」「海外贈収贈禁止」に関する各ガイドラインを定めています。なお、CSR調達に関してはガイドブックとして開示しています。

セガサミーグループのCSR

セガサミーグループは、CSR活動を当社グループの持続的価値創造と社会の持続的発展の双方を実現するための重要な活動と捉えています。

「CSR・SDGsに関する方針」を定め、CSR活動にSDGsを関連付け、重点取り組みテーマを定めています。また定期的にステークホルダーの意見や要望を確認し、重要課題の確認を行い、グループの活動を内外に発信します。

 **グループCSR・SDGsに関する方針**
https://www.segasammy.co.jp/japanese/pr/commu/csr/gr_policy/

グループCSR・SDGs推進方針について

2019年2月にCSR・SDGs推進に関する方針を改定・改称し、SDGs重点取り組みテーマを定めました。

- ・ 超少子高齢化社会への対応 (SDGsゴール3、4、8)
- ・ 働きがい・多様性の向上と不平等の排除 (SDGsゴール1、5、8、10)
- ・ 依存症問題への対応 (SDGsゴール12)

セガサミーグループは、グループの成長のみならず、日本経済全体の活性化や世界の持続可能な成長に貢献するとともに、人類社会を持続させるための責務を含めた自らの責任を自覚し、グループらしいCSR・SDGs推進活動を実践していきます。

なお、CSR活動全体のテーマとして次次の5つを設定しています。

- ① 事業を通じた貢献(エンタテインメントによる感動体験の創造およびSDGs取り組みを通じた社会課題解決/製品サービスの提供における安心・安全・満足の追求)
- ② 「社会貢献」(良き「企業市民」としての地域社会との積極的な対話と幅広い社会貢献)
- ③ 「環境対応」(リサイクル・リユースによる廃棄物削減等による環境負荷の軽減)
- ④ 「コーポレート・ガバナンス」(コンプライアンスやリスク管理の徹底による企業経営の健全性確保、透明性向上、効率性向上)
- ⑤ 「経済的責任」(グローバルな事業展開を通じて継続的な成長・企業価値の最大化を目指し適正な利益還元、納税を実施)

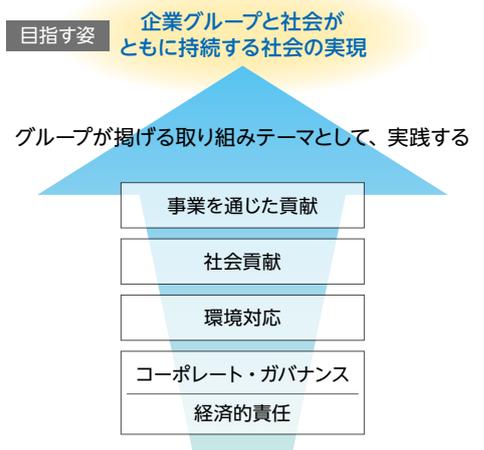
セガサミーホールディングスの取締役会で承認されたこれらのテーマについて、事業会社ごとに進捗管理を行っています。(主な取り組み内容についてはP.18をご参照ください。)

 **CSR・SDGs推進方針**
<https://www.segasammy.co.jp/japanese/pr/commu/tpm.html>

CSR・SDGs推進体制

セガサミーホールディングスに設置されているグループCSR推進室を2019年4月にCSR・SDGs推進室へ改称し、グループのCSR・SDGs活動を統括・管理・支援しています。さらに、SDGsに対する取り組みを強化するにあたり、CSR・SDGs推進室にグループ内のプロジェクトへのマーケティングを支援する機能の拡大を図っています。

2019年5月には、国内グループ会社全役員に対しSDGs研修を実施し、主要事業会社11社でSDGs重点取り組みテーマをベースにした社会課題解決を目指した取り組みを始めています。活動状況については、定期的にホールディングス取締役会に報告を行います。グループでの活動推進のため、ホールディングスのCSR・SDGs推進室長を議長としグループ会社のCSR責任者が参加する



「グループCSR事務局会議」を設けています。CSR活動に関する施策の計画・実行・評価・改善（PDCAサイクル）などを行うため、原則として年に1回開催しています。

なお、CSR・SDGs活動の状況については、CSR BOOKLETをWEB開示しグループ内に活動状況を共有するとともに、本レポートを社員向けに編集した「CSR COMMUNICATION REPORT」に付属しているアンケート（2018年度 1,020件）の回答状況（経営理念、行動規範の浸透確認含む）をセガサミーホールディングス取締役会にて報告しています。

ステークホルダーとのかかわり

セガサミーグループの事業活動は、5つのステークホルダー（「お客さま」、「お取引先」、「株主・投資家」、「社員」、「社会（社会貢献と環境）」）とのかかわりの中で成り立っています。ステークホルダーとのコミュニケーションを通じて、信頼関係を深めながら、ご意見やニーズを事業活動に反映することに努めています。

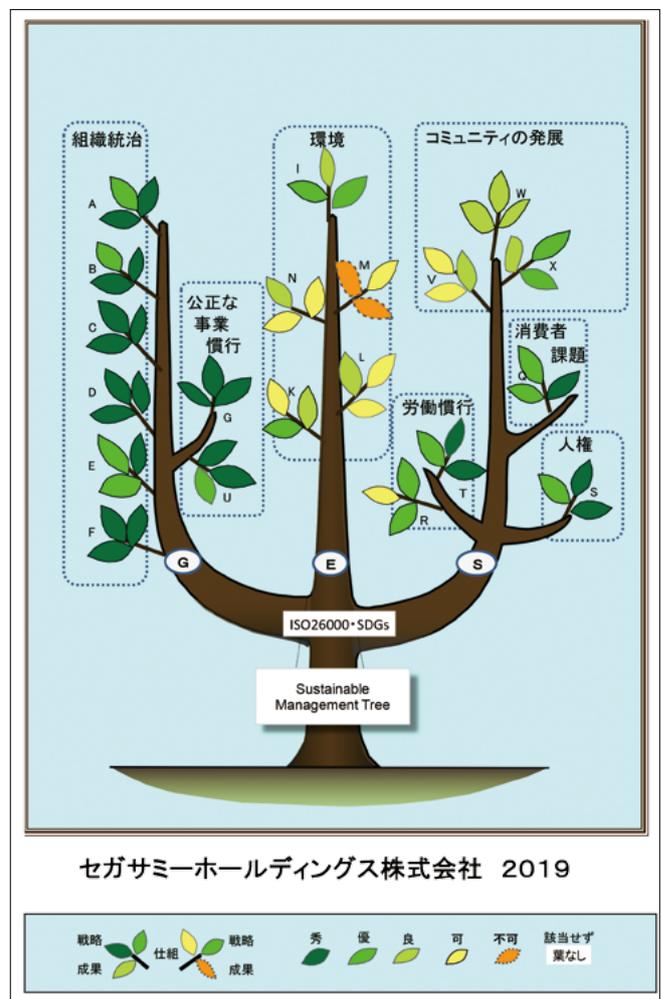
環境経営学会による経営評価および専門家によるステークホルダーダイアログ、マテリアリティの設定

2016年より、認定特定非営利活動法人環境経営学会 経営診断推進委員会によるサステナブル経営診断を受けています。診断の結果、評価の平均評点獲得率は77.6%と、2年連続で改善しました。なお、2019年4月には、経営、人権、環境などの各分野の専門家である評価委員の方々とCSR・SDGs推進室長がCSRの取り組みについてのステークホルダーダイアログを開催し、その意見・要望を評価結果とともにホールディングス取締役会に報告しています。ぱちんこ・パチスロ・ゲーム機のリユース・リサイクルの取り組みに関し高く評価をいただいたものの、一層の環境対応の取り組み要望を受けました。当グループとしては、これを受け、前出の3つのSDGs重点取り組みに環境対応を加えた4項目をCSR活動のマテリアリティ（重要課題）と設定しました。

また、環境対応推進として、①環境活動に関するSSHHD取締役会報告体制の整備、②CO₂排出量算定スコープ3対応、③TCFD対応を行うこととしました。



ステークホルダーダイアログの様子



結果ツリー図

国連「グローバル・コンパクト」への参画

セガサミーグループは、2014年4月、「国連グローバル・コンパクト」(以下、UNGC)への支持を表明し、署名しました。UNGCとは「各企業が責任ある創造的なリーダーシップを発揮することによって、社会のよき一員として行動し、持続可能な成長を実現するための世界的な枠組みづくりに参加する自発的な取り組み」です。私たちはUNGCが掲げる10原則に基づき責任ある経営を推進することによって、持続可能な社会づくりに貢献していきます。また、グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパン(以下、GCNJ)内に組織されている、サプライチェーン、WEPS、SDGs研究分科会などの活動に参加し、他社との情報共有を行うほか、GCNJの活動に貢献し、社会の課題解決に向けて積極的に取り組んでいます。

国連「グローバル・コンパクト」項目と10原則		当社グループ「CSR BOOKLET」	関連ページ
人権	原則1：人権擁護の支持と尊重 原則2：人権侵害への非加担	マネジメント：セガサミーグループの理念体系、CSR お取引先とともに：公平・公正な購買のために 社員とともに：人権の尊重	P.11-15 P.31-32 P.36
労働	原則3：結社の自由と団体交渉権の承認 原則4：強制労働の排除 原則5：児童労働の実効的な廃止 原則6：雇用と職業の差別撤廃	マネジメント：セガサミーグループの理念体系、CSR お取引先とともに：公平・公正な購買のために、お取引先とのパートナーシップ 社員とともに：人財の育成と評価、多様性の推進、人権の尊重、働きやすい職場環境の整備	P.11-15 P.31-32 P.36-38
環境	原則7：環境問題の予防的アプローチ 原則8：環境に対する責任のイニシアティブ 原則9：環境にやさしい技術の開発と普及	マネジメント：セガサミーグループの理念体系、CSR 社会とともに【環境】：シーガイアビーチクリーンinーツ葉、グリーン電力証書システムの導入、製品の環境配慮設計、11年目を迎えた森林の里親活動～「セガの森」～、みんなで創ろうーツ葉の森林	P.11-15 P.42-45
腐敗防止	原則10：強要や贈収賄を含むあらゆる形態の腐敗防止の取り組み	マネジメント：セガサミーグループの理念体系、CSR マネジメント：コンプライアンス お取引先とともに：公平・公正な購買のために	P.11-15 P.15-17 P.31-32

CSR推進活動

意識の醸成

セガサミーグループでは、社員一人ひとりがCSR憲章を理解し、その精神に基づいたグループ行動規範に沿って行動してこそ、当社グループが掲げる「グループミッション」を実現できると考えています。セガサミーホールディングスのCSR・SDGs推進室では、グループすべての社員を対象にCSR活動の重要性や取り組む意義を伝えながら、それぞれの理解度に合わせた各種研修をはじめとした浸透策を企画し、実行しています。

また、「CSR COMMUNICATION REPORT」を全社員に配布し、CSR意識の浸透とグループ一体感の醸成を行うとともに、ポスターを掲示して社内の意識向上に努めています。



全社員に配布している
CSR COMMUNICATION
REPORT

CSR研修

2013年10月から、グループ企業のマネジメント層並びに一般層向けにCSR研修を実施しています。2018年度はグループ企業7社、898名が受講し、2013年度からの総受講者数は3,329名となりました。外部講師による講義やグループワークを通じて、社会や事業環境の変化を考え、「社会と企業の共生」や「企業の持続的成長・発展」についての理解と参加者同士のコミュニケーションを深めました。

修了時には、受講者全員が「CSR推進宣言」を提出し、セガサミーグループの一員としての存在意義を再確認する機会を設けています。今後も「社会から期待され、信頼され、尊敬される企業、そして社員が誇れるグループ企業に」を社員一人ひとりが意識して行動できるように、研修を継続していきます。

※ 詳細はP.38参照



CSR研修のグループワーク

■セガサミーホールディングス会長と
グループ社員の意見交換会

各現場の活動成果や課題などを共有し、今後のCSR活動の方向性について議論することを目的に、セガサミーホールディングス会長とグループ社員の意見交換会を年に1回実施しています。グループ各社のCSR推進担当者や、各社が注力するプロジェクトや人事の責任者などが参加し、活発な意見交換が行われます。経営トップと、日常業務では接する機会が無い部門や社員同士が一つのテーブルを囲むことで、グループ間コミュニケーションの活性化に大いに役立っています。2019年度は4社、7名が参加しました。



経営トップとグループ社員が事業やCSRについて語り合う意見交換会

コーポレート・ガバナンス

コーポレート・ガバナンスについては、当社グループ統合報告書をご参照ください。



統合報告、コーポレート・ガバナンス

<https://www.segasammy.co.jp/japanese/pr/corp/governance/>

コンプライアンス

基本的な考え方

セガサミーグループは、「グループ行動規範」および「グループ・マネジメントポリシー」に基づき、一人ひとりがコンプライアンスを意識した適切な行動を取るために、様々な取り組みを行っています。

コンプライアンス推進体制

▶ 推進体制の概要と強化

セガサミーホールディングスのコンプライアンス推進室長が議長を務め、年2回開催される「グループコンプライアンス・リスク連絡会議」(セガサミーホールディングス社長、常務取締役、管理系本部担当執行役員、主要グループ会社のコンプライアンス推進部門掌管役員・部長、監査役が出席)のもと、法令・社会規範を遵守した健全な企業経営を展開するための社内体制構築を図っています。

また、2019年4月にグループコンプライアンス推進室を設置し、国内グループ24社の社員を対象としたeラーニングなどのコンプライアンス教育を一体的に実施していきます。

▶ 内部監査

経営監査部では、グループ各社に対しコンプライアンス遵守のために各種テーマ監査に加え、グループ企業の遊戯、宿泊並びにゴルフ場などの各施設、提供する食品の安全性などに関して定期的に内部監査を行っています。重要発見事項については年2回セガサミーホールディングス取締役会に報告を実施しています。また、通常行われる内部監査に加え、お客さまの安全を第一に、改善項目に関して継続してモニタリングし、改善状況を確認しています。

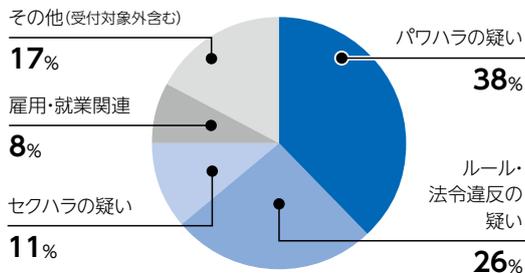
■ 主な改善事例

取り組み	進捗・実績
全国のアミューズメント施設110店舗にて、お客さまにけがや事故などが発生しないように安全点検を実施しております。	2019年度は点検の結果、216件に改善の指摘や是正を依頼しました。 ①施設設備及び備品に係る事項 109件 ②遊戯機器等に係る事項 99件 ③食の安全に係る事項 8件
過去の監査にて、宿泊施設、ゴルフ場、レストラン等に於ける施設安全、食品衛生、防火などの確認を実施した結果、180ヶ所の違反や不備を指摘しました。	<ul style="list-style-type: none"> 指摘を行った180件のうち、2018年までに147件の改善が確認されています。残りの33件についても対応策を検討中です。 指摘事項の確認中にも新たに13件の不備を確認し、改善を依頼しています。
法令上の不備や安全性だけでなく、外観や清潔感などのホスピタリティの向上に関する視点での確認も行っています。	高級感やリゾート感を損なわないための補修や不要物撤去・清掃が必要な事例を11件を確認し、改善を依頼しています。

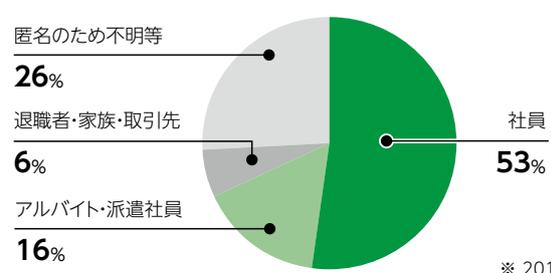
内部通報制度

グループ内での自浄機能を作用させ、法令違反や不正行為などを未然に防ぐため、「セガサミーグループ企業倫理ホットライン(内部通報制度)」を設置しています。2019年4月、グループ各社の窓口を一元化し、独立性を有する第三者の危機管理専門会社に受付窓口業務を委託しました。退職者を含む従業員とご家族、お取引先からのご相談に対応しており、全従業員へのカードの配布、社内イントラネットへの掲載などで周知しています。2016～2018年度の実績(国内)は、16件、19件、24件でした。なお、2014年度～2018年度の通報内容の内訳と通報者の属性は以下のとおりです。

▶ 通報内容の内訳*



▶ 通報者の属性*



※ 2014～2018年度

コンプライアンス推進活動

▶ ルールの徹底と意識強化

コンプライアンス意識の醸成と浸透を図るため、グループ各社向け階層別啓発活動を実施しています。外部講師を招いた社内セミナーや、定期的かつ継続的に発信するメールマガジン、遭遇しそうな具体例を編集した「コンプライアンスハンドブック」、漫画を使って分かりやすくした関連記事などをイントラネットに掲載するなど、グループ全従業員を対象に啓発活動に取り組んでいます。

2019年度には、グループ全体のコンプライアンス体制を強化するため、グループコンプライアンスを設置。グループ24社を対象とした統一コンプライアンス研修としてeラーニングを導入しました。またコンプライアンス意識調査(回答率94%)を実施し、今後のリアル研修実施および重点的な研修実施に役立っていきます。

■ グループ役員層におけるコンプライアンス研修実績(2018年度)

種類	対象	会社名	回数	人数(のべ)
役員 コンプライアンス 研修	グループ全社の 会社役員、監査役、 執行役員	SSHD、SHD、SAMMY、 SNW、TMSほか	3回	151名

※ 略称は、P.02参照

▶ 反社会的勢力の排除

セガサミーグループは、反社会的勢力による経営への関与の防止のために、グループ行動規範に反社会的勢力との一切の関係を排除する旨を明記するとともに、お取引先との契約書へのいわゆる暴排条項の組み込み、お取引先が反社会的勢力に該当するか否かのチェックシステムをグループとして導入しています。反社会的勢力からの接触を受けた際は、適宜に警察・弁護士などを含め外部機関と連携して組織的に対処します。

▶ 腐敗防止

「グループ行動規範」において、(1)贈賄をはじめ利益供与、便宜供与とみられるあらゆる腐敗を防止すべきこと(2)寄付を含む社会貢献活動を行う際は、関係法令に基づき定めた社内ルールを遵守して、公明正大に行うべきことを明記し、2014年7月に「海外贈収賄禁止に関する方針」を策定し、リスク分析の上、関連部門への研修、定期的な確認メールの配信などを実施しています。

リスク・マネジメント

基本的な考え方

セガサミーグループは、「グループ・リスクマネジメントに関する方針」に基づき、事業の推進および企業価値の維持・向上を妨げる重大なリスクに対し、平時より対策を検討し、損失を最小化する体制を構築することで、様々なステークホルダーへの影響を極力小さくするよう最大限の努力を行い、社会から強い信頼を得る企業を目指しています。

リスク・マネジメントの状況

■ 危機管理

セガサミーグループでは、「グループ・リスクマネジメントに関する方針」のもと、「危機管理ガイドライン」を制定し、年1回主要17社のリスク分析を行い、SSHの取締役会で共有するとともに、潜在するリスクの低減および危機の未然防止に努め、重大な危機が発生した場合の即応体制を整備・維持しています。また、「首都直下地震における帰宅困難者対策のセガサミーグループ基本方針」を策定し、「備蓄品手配」、「建物設備の安全構築」、「安否確認の実施」、「帰宅ルール」についてグループ会社ごとに対応策を定め、イントラネットなどで全社員への周知を図っています。

■ 知的財産の管理

セガサミーグループでは、知的財産は企業競争力を高める重要な要素かつ企業経営を支える経営資源と位置づけ、グループ会社ごとに方針を掲げて取り組んでいます。

エンタテインメントコンテンツ事業では、各部門に知的財産推進委員を置き、プロジェクトの現場責任者、担当者、新入社員に向けた研修・説明会などを通じて、継続的に知財意識啓発を行っています。また社内イントラネットを通じて知財情報の共有を推進することで、第三者の知的財産権侵害を未然に防ぐとともに自社の知的財産権の適切な管理を実施しています。

さらに知的財産権部が各部門と連携して事業戦略に即した知財戦略を策定・実行することにより、グループ全体で知的財産権を積極的かつ戦略的に取得活用していく取り組みが進められています。また、ブランドの維持・向上のために模倣品対策なども実施しています。遊技機事業では、研究開発の段階ごとに技術調査などを実施し、徹底したリスクアセスメントを行っています。また管理職、新入社員、開発者などの階層に応じた知財研修制度や、社内イントラネットによる定期的な知財情報の発信など、多様な啓蒙環境を設けて知財意識の向上を図っています。

さらに技術分野ごとに戦略的な知財ポートフォリオを構築し、効果的な知財活用を推進しています。

■ 情報セキュリティ

セガサミーグループでは、お客さまの情報はじめ、経営情報や営業情報などすべての情報を重要な財産と捉え、「グループ情報管理に関する方針」、「グループITセキュリティに関する方針」、「グループ個人情報保護に関する方針」、「情報管理規程」などを定めています。また、グループ各社の担当者による情報共有の場を設け、グループ全体での取り組みを一層強化するための施策を話し合うなど、情報管理体制の強化に向けた取り組みを進めています。

個人情報については、「グループ個人情報保護に関する方針」に基づき各社で「プライバシーポリシー」を定め、お客さまの個人情報の適切な管理や運用に始まり、不正アクセスや紛失、改ざんおよび漏洩などを防止する対策を講じています。なお、セガグループのサービスが一つのIDで簡単・便利に楽しめる「SEGA ID」に関する個人情報はセガホールディングスの管理下にあり、同社はプライバシーマーク(Pマーク)を取得しています。

テーマ別課題と2018年度進捗状況および2019年度の取り組みおよびSDGsとの関連性について

グループが掲げる4つの取り組みテーマに対し、課題を設定し、活動の進捗・実績の管理を行っています。2018年度は、Road to 2020に邁進するとともに、グループシナジーの一層の拡大と効率化を目指し、2018年8月のオフィス統合および働き方改革の推進を行いました。社員の多様な働き方が可能となり、環境面も考慮した効率的なオフィス環境を整えることで、グループの中長期的成長やステークホルダーの皆さまの期待に応えていきます。

また、2019年度より、SDGsへの取り組みをグループ全体で強化し、グループ主要各社で計画を策定しPDCAサイクル作りを進めています。

■ セガサミーグループ「4つの取り組みテーマ」の主な課題と活動実績

※ 略称は、P.02参照

取り組みテーマ	課題	取り組み	2018年度の進捗・実績	主な掲載ページ	関連するSDGs
事業を通じた貢献	事業を活かした社会課題の解決	グループコンテンツを活かしたイベント・製品の提供	<ul style="list-style-type: none"> グループ役員向けSDGs研修および11事業会社でSDGs推進計画策定【グループ】 共遊玩具の開発・製造・販売【TOYS】 ドライブシミュレーター【SLS】 豊かなシニアライフのための趣味・交流機会づくり(シュミカツ!)【SGC】 障がい者・健常者がともに楽しめるe-sports【SGC】 プログラミング授業の体験【SE、TOYS】 NPOとの協働で玩具を寄贈【SSHD、TOYS】 ゲーム出前教室【SIC】 	P.20	3 4 8
	社会に与えるマイナス影響の軽減	依存症対策	<ul style="list-style-type: none"> 京都大学との共同研究 	P.26	12
		業界団体標準等に準拠した安全基準の遵守	<ul style="list-style-type: none"> 業界団体の基準等に準拠した安全基準【E、遊、TOYS】 業界団体を通じた適度な遊技環境の推進【遊、SE】 		
	安心・安全で楽しい製品・サービスの提供	製品やサービスの安心・安全の提供、並びに適正な情報開示	サポート体制のさらなる充実	<ul style="list-style-type: none"> 対象各国の法令、業界基準等に則し、それを上回る自主基準の設置、製品表示などによる情報開示を含む品質保証【E、遊、TOYS】 青少年保護対策【SE】 正確で適切な製品表示【E、遊、TOYS】 	P.25-26
その他グループ全体での社会貢献および文化等への発展支援			<ul style="list-style-type: none"> お客さまサポート体制の充実【E、遊、TOYS】 		
社会貢献	災害復旧・復興支援活動やグループ全体の活動を通じた社会貢献	東日本大震災復興	<ul style="list-style-type: none"> グループ新入社員研修の一環として被災地へ派遣(12社、202名)【グループ】 コンテンツを活かした被災地復興支援イベントを開催(6回)【グループ】 宮城県七ヶ浜町と地方創生に係る包括的連携協定【SSHD】 	P.7-10	11
		その他グループ全体での社会貢献および文化等への発展支援	<ul style="list-style-type: none"> セガサミー文化芸術財団設立、「TOKYO JAZZ」など芸術活動への協賛【SSHD】 「絵本を届ける運動」(321冊)(発展途上国のエンタテインメント環境整備)【グループ】 玩具寄贈など【SSHD、TOYS】 	P.47-50	1 2 3 4 10
	地域社会への貢献	地域のスポーツイベント参画や支援など	<ul style="list-style-type: none"> 「ジュニアスポーツフェスティバル」並びに野球教室の開催【SSHD】 マラソン大会協賛【遊】、街並み清掃活動【SHD】 子ども食堂への支援【SSHD、PSR】 		
環境対応	事業活動から発生する環境負荷の軽減	環境配慮型製品開発・販売の推進	<ul style="list-style-type: none"> 低消費電力製品の開発・提供点数の増加【E】 エコばちんこの開発、製品化への展開【遊】 	P.32 P.42-45	3 9 12 13
		3R(特にリサイクル)の推進	<ul style="list-style-type: none"> 下取機リサイクル95.00%達成【遊】 廃棄物有価リサイクル(川越工場勤務者による分別活動)の実施【遊】 AM(アミューズメント)機器の手分解による100%リサイクルを実施【SLS】 		
		環境保全活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> 年次サプライヤーミーティングでの環境規制等の情報を配信【E】 		
	地球環境資源への配慮	環境施策の推進	<ul style="list-style-type: none"> グリーン電力証書の購入(100万kWh実績/年)【SHD】 横浜市風力発電事業「Y(ヨコハマ)-グリーンパートナー」への協賛(グリーン電力証書2018年実績: 212,848kWh)【SHD】 主要グループ会社15社の環境負荷数値把握体制の整備【SSHD】 森林里親契約「セガの森」整備によるCO₂吸収量が長野県から評価【SHD】 シーガイア敷地内の黒松(250㎡)の管理・保護・育成【PSR】 	P.42-45	7 11 13 14 15
コーポレート・ガバナンス	コーポレート・ガバナンスおよびコンプライアンスの強化	コーポレート・ガバナンス強化(働きがい・多様性の向上と不平等の排除含む)	<ul style="list-style-type: none"> ガバナンスコード対応、独立諮問委員会・経営戦略委員会運営、SSHD役員研修等【SSHD】 グループミッション、行動規範の浸透状況を取締役会に報告【SSHD】 働き方改革推進【グループ】 LGBT支援制度導入、東京レインボープライドに協賛【グループ】 セガサミーカレッジ開校【グループ】 	P.47、 統合報告書参照	5 8 10 15
		コンプライアンス強化	<ul style="list-style-type: none"> グループ役員コンプライアンス研修(3回、151名)【グループ】 企業倫理ホットラインの設置による使いやすい通報制度の構築【グループ】 2019年度グループ24社を対象とした統一コンプライアンス研修(eラーニング導入済み) 	P.16	16
	CSR意識浸透・CSR経営の推進	経営者からの継続的なメッセージ発信によるグループミッションの浸透	<ul style="list-style-type: none"> グループ社員向けCSR研修の実施(25回、7社、898名)【SSHD】 グループミッションをグループイントラネットに掲示、社員手帳冊子にも掲載し社員啓発を促進【グループ】 CSRコミュニケーションレポートを発行しグループ正社員、アルバイト等10,107冊を配布【グループ】 経営トップから、社会情勢や事業発表とともに、現実に即した形で社員に分かりやすく経営理念の意味と実践についてメッセージを配信(年3回)【グループ】 「国連グローバル・コンパクト」への参画【SSHD】 	P.12-14	—
		CSR情報の把握と共有	<ul style="list-style-type: none"> グループ会社CSR担当者向け情報媒体(新聞、雑誌等)を通じたCSR情報の収集とグループ各社への提供(随時)【SSHD】 		

セガサミーグループのSDGsへの貢献

エンタテインメントでしかできない サステナビリティの「本質」 実現を目指して

セガサミーホールディングス株式会社
代表取締役社長グループCOO

里見 治紀



2018年度、SDGsの観点を取り入れた「CSR・SDGs活動の推進に関する方針」を公表しました。策定の際、軸に据えたのはサステナブルな視点です。「SDGsありき」ではなく、あくまでグループミッションに掲げる「感動体験」の提供をテーマに、まずは本分である事業活動・社内的施策に全力を注いだ結果として世の中の要求に応じていくことが、企業と社会の持続的な発展につながり、ひいてはそれがSDGs達成の貢献になると考えています。

そして、その実現に向け、我々は「CSR推進室」から組織改編した「CSR・SDGs推進室」を中心に、既存の取り組みをSDGsの視点から捉え直し、「超少子高齢化社会への対応」「働きがい・多様性の向上と不平等の排除」「依存症問題への対応」を重要課題として掲げました。また、主要事業会社ではSDGs推進計画の策定に着手しました。

超少子高齢化社会への対応

教習所などで使用されている運転シミュレーターの多くは当社グループ企業が開発したものです。現在は教習所以外での普及に注力しています。各所で導入が進み、運転技術の再訓練の場が増えれば、近年、相次いで耳にする高齢者をはじめとした痛ましい交通事故の減少につながり、高齢化社会における一つの問題解決の契機となるはずです。

また、宮城県七ヶ浜町と包括連携協定を締結、社員を3名派遣しました。地方が抱える課題を直接感じ、町の方々と一緒に解決、共創し、貢献できればと思います。

働きがい・多様性の向上と不平等の排除

エンタテインメント企業である以上、クリエイティブな発

想は不可欠です。従業員が質の高いアウトプットを続けるには、働きやすい職場でなくてはならないという観点から、徹底して労働環境の改革に取り組んできました。フレックスタイム制や副業を認める「JOB+(ジョブプラス)」などはすでに一定の効果を上げつつありますし、女性活躍推進のために何をすべきか、議論も重ねています。また、今後さらなる重要度の高まりが予想される介護休業を見直すなど、多様な働き方を実現するツールを積極的に用意していきます。

加えて、LGBTを正しく理解するという方針を会社として明文化しました。とくに海外では、クリエイティブ系の職能者にLGBTが少なくなく、我々も支援する立場になければならないと考えています。

依存症問題への対応

遊技機、ゲーム、統合型リゾートを展開する当グループ企業にとって、依存症という課題に対しての責任を負ってもあります。従来のギャンブル依存症対策は「回復」に重きを置いた対症療法でしたが、現在、京都大学と共同で、当社グループが持つビッグデータとAIなどを用いて「予防」中心の研究を進めています。売上に影響しかねず業界内でも類を見ない取り組みですが、お客さまの健康・健全な日常を守るために覚悟を持って臨んでいます。

ビジネスに出精するなかで自然と社会の要請に応じていく。これが理想的なサステナブルな姿であり本質だと我々は確信しています。エンタテインメント企業として「感動体験」を提供するという、セガサミーグループにしかできない使命を全うすることで、SDGsが掲げる豊かな社会の実現に寄与していきます。

事業活動に全力で取り組み、結果として世の中での課題を解決していく。セガサミーグループは、この持続的な活動がサステナビリティの本質と捉えています。エンタテインメントを通じて社会をもっと元気に、カラフルにする。グループとして掲げるミッションの遂行に力を注ぐことで、引き続き社会の要求に応えていきます。

2019年5月に主なグループ企業役員約70名に対し、SDGs研修を行い、11の事業会社が新たな約50プロジェクト*からなるSDGs推進計画を策定しています。主な構成は、新規事業・既存事業新分野で約3割、既存事業ラインナップ拡充で約2割、環境改善で約2割であり、今後はこれらプロジェクトのPDCAサイクルを回しながらSDGsを推進していきます。

* 既存進行中のプロジェクト1割含む

セガサミーグループのSDGsへの貢献

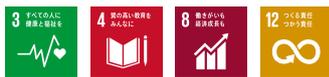
2015年9月に国連サミットで、人間、地球および繁栄のための行動計画として17のゴールと169のターゲットからなる「持続可能な開発目標(SDGs: Sustainable Development Goals)」が設定されました。世界中でSDGsの達成に向けた取り組みが行われており、企業にも主体的な関与が期待されています。セガサミーグループは、事業活動を通じてグローバルな社会課題の解決に貢献していきます。



取り組み テーマ

超少子高齢化社会への対応

関連するSDGs



主な取り組み

- 子どもたちの発育を促す玩具の提供
- 小中高生へのプログラミング教室やスポーツ教室などの出前授業の実施
- JAIA「健全化を阻害する機械基準」運用規程の遵守
- 子ども食堂への寄付
- 大人のための趣味発見サイト「シュミカツ！」の提供
- 教習所以外での運転シミュレーターの普及

取り組みに関連するページ

→ P.23、P.26-27、P.46-50

取り組み テーマ

働きがい・多様性の向上と 不平等の排除

関連するSDGs



主な取り組み

- フレックスタイム制・ノー残業デーなどの導入
- 「JOB+」の本格施行
- 「セガサミー そらもり保育園」の開園
- LGBT支援制度や設備の導入
- 就業規則に「性的志向や性自認を理由とした差別的禁止」を明記
- 介護休業制度のさらなる拡充検討
- 東京レインボープライド2019への協賛

取り組みに関連するページ

→ P.33-37、P.47

取り組み テーマ

依存症問題への対応

関連するSDGs



主な取り組み

- 京都大学との依存症予防に関する共同研究の実施
- 一部ゲームタイトルで年齢制限による月間の課金上限を設定
- 有料ガチャにおいてアイテムごとの入手確率を明記

取り組みに関連するページ

→ P.26-27

環境対策 など

関連するSDGs



主な取り組み

- 各店舗のエネルギー使用量見える化
- アミューズメント施設や製品の省電力化
- バイオマスなど再生可能エネルギー利用の推進
- 製品や事業活動における3R(リデュース、リユース、リサイクル)の推進
- プラスチック問題への取り組み
- 森林整備活動などによる生物多様性の保全
- CO₂排出量測定スコープ3およびTCFD対応の推進

取り組みに関連するページ

→ P.42-45

お客さまとともに



グループCSR憲章

私たちは、いつの時代においても、
お客さまとともに歩みながら、感動体験を創造し続けます。

グループ行動規範

「安心・安全・高品質」「顧客の満足」「製品安全性の確保」

- (1) 常にお客さまの期待に応えられる、安心・安全かつ高品質な商品・サービスの提供に努めます。
- (2) 常にお客さまの声に耳を傾け、満足頂ける商品・サービスの提供に努めます。
- (3) 常にお客さまの目線に立ち、適正価格で、かつ迅速な商品・サービスの提供に努めます。
- (4) 常に市場に目を配り、時代の変化に敏感であり続け、技術向上・アイデア創出に努めます。
- (5) 自社の責任で製品設計を行う場合、製品が各国の法令等で定める安全基準を満たすよう努めます。

「適正な取引関係」「情報開示」「クレーム・通報」

- (6) お客さまとは常に適正な取引関係を保ちます。適正な利潤を損ねるような不当廉価販売、正常な商行為と認められないような行為は一切行いません。
- (7) セガサミーグループの企業活動・商品・サービスについて、お客さまのより一層の理解に役立つ情報を、積極的に開示します。
- (8) クレーム・トラブル・事故等については、内容を精査し、適切な対応を行います。



(株)セガゲームス
第1管理部 事業推進チーム プロデューサー
小玉 理恵子 (Kodama, Rieko)

日本人女性として初受賞！

「Game Developers Choice Awards

2019パイオニア賞」

入社当初、デザイナーとしてスタートした私ですが、ゲーム制作に関わる立場を替えながらも、より楽しんでもらえる遊びやシナリオを、より愛んでもらえるキャラクターを全世界のユーザーの方々にも届けたいと思い続けてきました。現在は、SEGA AGESシリーズと銘打ったレトロタイトル復刻プロジェクトに携わっており、多くのユーザーの皆さまにレトロタイトルの忠実な復刻と追加される新しい遊びの要素を、最新のハードで体験をしていただくことを目標に開発しています。ゲーム開発を生業として30余年経ちましたが、これからもセガサミーグループの一員として、世界の皆さまにゲームで遊ぶ楽しさと感動を届けられる人であり続けたいと思います。



※ 「Game Developers Choice Awards」は、ゲーム業界のクリエイターによって構成される団体「International Choice Awards Network (ICAN)」の選考により、発表されたゲームを、創造性、芸術性、技術的な観点から評価し、功績をあげた開発者やゲームに対して年次で表彰する2001年よりスタートしたアワード。パイオニア賞は日本人ゲーム開発者において史上3人目、女性としては史上初の受賞。



(株)トムス・エンタテインメント YouTubeプロジェクトチーム

(左)佐々木 智子 (Sasaki, Tomoko) (左から2人目)江橋 舞子 (Ebashi, Maiko)
(右から2人目)斉藤 有紀 (Saito, Yuki) (右)末木 文 (Sueki, Aya)

登録者数10万人を最速突破！

“TMSアニメ55周年チャンネル”開設

トムスには次世代に伝えたい名作アニメがたくさんあります。これらの名作と若い世代が出会える“タッチポイント”&“リブランディング”の一環として「TMSアニメ55周年公式チャンネル」を2019年4月より期間限定で開設しました。「続きが見たいのでAmazonビデオで買いました」「お母さんの勧めで見てみたら面白い！」という嬉しいコメントや、期待以上の視聴回数を記録中の『ムシキング』や『じゃりン子チエ』のポテンシャルも再確認でき、チャンネル登録者数は開設3ヶ月弱で10万人を突破しました。TMSアニメを未来へつなぐレール創りはまだ始まったばかり。事業を通じ、全世代のファンに感動体験を伝えていきたいです。(斉藤)



▲ 開設3ヶ月弱でチャンネル登録者10万人突破！快挙を記念し、YouTubeから竹崎社長へチャンネル名が刻印された銀ボタンが授与されました。



▲ チラシは全国のセガ店舗にて配布中。

TMSアニメ55周年公式チャンネル
<http://yt.be/TMS-55>



セガサミーゴルフ
エンタテインメント(株)
運営部 マスター室 主任
鈴木 一人
(Suzuki, Kazuhito)

**最高の満足いくゴルフ場での
1日を過ごしていただくために**



ゴルフ場運営におけるマスター室は、ゴルフ場の商品価値を上げるために、お客さまが支払う対価に対して、またリピーターとなっていただくための重要な業務を担っています。お客さまに満足して、スムーズなラウンドと快適なプレーをしていただけるよう、キャディに対するスキルアップの教育指導、プレー進行やコース内の状況把握に関する管理業務など日々遂行しています。新生マスター室としてスタートして2年目。まだまだ経験・知識不足という側面は否めませんが、「三方よし」の目標を掲げ、お客さまに感動を与えるサービスを提供していただけるように全員のベクトルを合わせています。マスター室とキャディ、他セクションの間でお客さまの情報などに関して見落としがないように、緊密なコミュニケーションと情報の共有の徹底をしっかり行い、お客さま、キャディ、マスター室、そして会社全体が信頼し合える関係を築いていきたいと思ひます。



季節を意識した

イベントで感動体験を！

学生時代、数年間カフェや塾でアルバイトを経験し、人と接する仕事をした！という思いからセガ エンタテインメントへ入社を決意しました。入社してから秋葉原や東京ドームシティ店へ配属され、たくさんのお客さまとふれあい、学ぶことができました。

2018年10月より横浜中華街店の店長に配属となり、今までの経験を活かしながら、日々スタッフと一緒に「10代20代を中心としたお客さまにどうやったらもっと喜んでいただけるか」を考え、実行しています。

特に今、力を入れているのは2階のインスタ映えを意識したフォトジェニックスポットです。チャイナ服のレンタルも実施しており、スタッフが率先して季節ごとにイベントを意識した装飾を行って来ています。今後もスタッフとともに、お客さまに感動を体験していただける空間を創造していきたいと思ひます。



(株)セガ エンタテインメント
オペレーション統括本部
中日本営業部
東京西エリア
セガ横浜中華街
細美 奏子
(Hosomi, Kanako)





J-NEXT
エージェンシー(株)
ブライダル事業部
(右)志賀 早紀子
(Sakiko, Shiga)

J-NEXT
エージェンシー(株)
ブライダル事業部
(左)岡田 彩乃
(Ayano, Okada)



お客さまとともに

最高の幸せを感じる瞬間のために

ブライダル事業部では、結婚式を挙げられるお二人の幸せの門出を心から祝福し、感動的な挙式の演出をお手伝いしています。失敗や間違いが許されない緊張感の高い仕事ですが、現場で活躍する牧師や司会者をはじめ、プロの楽器奏者や聖歌隊のクオリティ向上とモチベーションアップに向けたサポートを、ブライダル業界経験者や音大卒のプロのスタッフでサポートしています。

お客さまから「素晴らしい演奏で挙式の厳かさが増し、とても感動的でした」「司会者の上手なリードのおかげで素敵な披露宴になりました」などのお言葉をいただいた時が、私たちの最大の喜びであり、さらなる業務のレベルアップの原動力となっています。



“共歓(きょうかん)”をテーマに 新たな価値観を創造！

現在、韓国の「パラダイスシティ」では50名以上のセガサミー職員が勤務しています。日本や諸外国のお客さまに対し、日本人ならではのサービスが提供できるように日々模索しています。



その中でも私が所属するカジノ運営パートで

は、ハウス(カジノ側)やお客さまの勝ち負けを超越し、お客さまと職員がともに楽しみや喜びを分かち合う「共歓(きょうかん)」というテーマのもと、既存カジノには無い新たな価値観を生み出そうと、言葉や文化の違いの壁などにぶつかりながらも奮闘し続けています。

そして、ここでの経験を活かし、日本にセガサミーIRが開業した暁には、日本が世界に誇れる唯一無二の存在になれるようこれからも精進していきます。



PARADISE
SEGA-SAMMY

(株)パラダイスセガサミー
日本市場企画運営部門
運営パート 副パート長

上杉 幸治 (Uesugi, Koji)

運転するすべての方々の

安全運転技術の向上に取り組んでいきます

2013年より新規事業の取り組みとして、ドライビングシミュレーターの開発・販売を開始し、2019年3月までに自動車教習所をはじめ、陸上自衛隊・物流会社など、累計260台を納品させていただきました。教習所・陸上自衛隊においては、運転免許取得時の講習用として、物流会社などにおいては、社内での安全運転講習に本シミュレーターを使用し、ドライバーの危険予測能力向上のため、活用されています。

今後は、ソフトを活用した企業研修への取り組み、高齢者向けの小型ドライビングシミュレーターや免許センター向けの自動車運転シミュレーター開発にも展開し、安全運転関連事業を拡大していきたいと考えています。

また、高齢者が少しでも安全に運転ができるように、ドクターのアドバイスを取り入れながら、社会課題とされる高齢者の運転にも、貢献できる取り組みを行っていきます。



(株)セガ・ロジスティクスサービス
営業部 副部長

岩城 匡宏 (Iwaki, Masahiro)

導入先のお客さまの声

シモハナ物流(株) 管理統括部 安全教育 統括マネジャー
松永 政登様

トラックには、やはり危険予知訓練(KYT)が一番重要です。セガグループ製品にしたのは、ゲーム機器メーカーならではのリアルな映像によって再現性の高いビジュアルで高い教育効果が望めるからです。当社では特に初心者や未経験者の危険予測能力の向上に役立てたいと考えています。同製品を設置している部屋は“ドライビングスクール”と名付けられ、社員なら誰でも利用可能です。導入から4ヶ月間で300名以上が体験し、安全運転に役立てられています。

お客さま満足の追求

お客さまニーズの把握と反映

■ お客さまサポート体制

E お客さまの声を製品・サービスの品質向上につなげるため、ユーザーサポート窓口を運用する一方で、様々なお客さま情報を社内各部署に届ける専門の組織（CRM推進部）を設けています。この組織は2つの課で構成されています。

①お客さまの満足を追求する「お客様相談課」

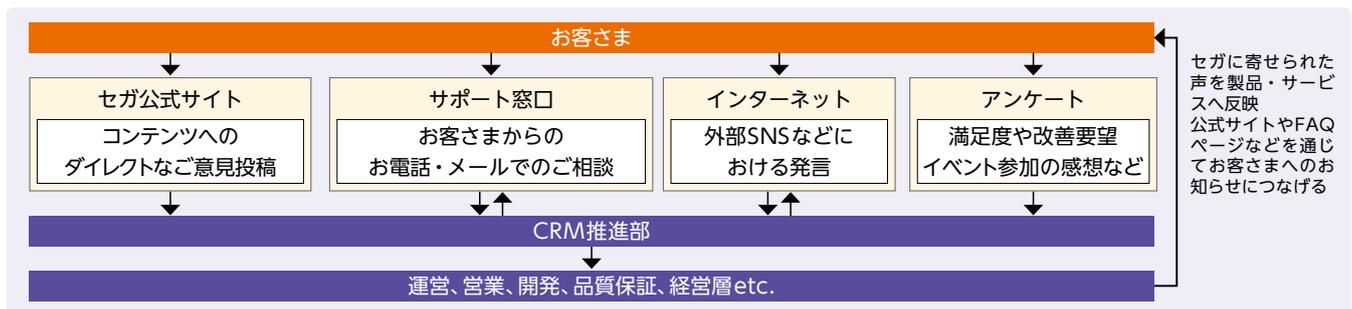
ユーザーサポート窓口の運用を通じて個々のお問い合わせに迅速・的確にお応えする一方で、ツールを活用してアンケートやWEBサイト・外部SNSなどからお客さまの声を効率的に収集・蓄積し、関連各所へ市場の動きを報告しています。開発など事業側では製品・サービスの利用状況と組み合わせ、徹底的に分析することで、スピーディな改善や進化・新企画の創出に活かす体制づくりが進んでいます。

②安全かつ合理的に個人情報を取り扱う「IDサービス課」

グループ横断でユーザー認証やオンライン決済を可能とする会員システム「SEGA ID」のインフラを提供するとともに、SEGA IDをキーにしてほかの情報と結合・蓄積できる仕組みも展開しています。また、2017年6月にはプライバシーマークを取得し、お預かりする個人情報により適切に管理・運用される環境を設けつつ、プライバシーマークの社外掲出を通じて社会的な信頼の獲得にも努めています。

同部署では、これまでITツールを使い、ユーザーデータの調査を行っていましたが、2018年度より顧客情報活用を促進するための土壌づくりを開始しました。お客さまに「もっと深く・ずっと遊んでいただくための関係構築」をスローガンに、一部開発部署からゲームサーバーログの提供を受け、お客さまの利用背景とゲームのプレイ状況を掛け合わせての市場報告強化に取り組んでいます。

■ お客さまの声にお応えする仕組み・体制（エンタテインメントコンテンツ事業）



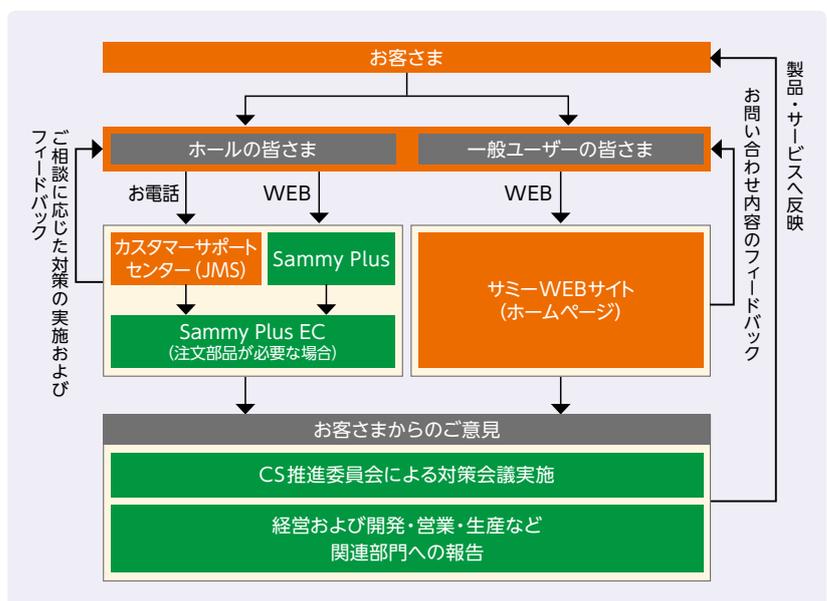
遊

2017年度、コールセンターとパーツセンターを統合しました。電話での機械故障やトラブルシューティングに関するお問い合わせ受け付けから、アフター部品の出荷、故障のお問い合わせいただいたお客さまへのフォローコール、故障部品の回収までを一元的に実施しています。それにより、今まで以上にスピーディな対応を実現するとともに、故障部品を実機に装着して検証するなどの研修を通じた的確な故障診断の実施を目指しています。

また、お客さまの利便性向上施策として、1.電話だけでご説明することが難しい部品の「搭載箇所」や「交換方法」を、アフター報配信WEBサイト「Sammy Plus」を併用して分かりやすく説明するマルチチャンネル案内の実施や、2.お客さまのご都合に合わせた部品注文が可能となるアフター部品のイーコマースサイト「Sammy Plus EC」の展開、3.競合メーカーのコールセンターと電話番号統一など、お客さまが利用しやすい環境の整備を進めています。

そして、サポートセンターへ寄せられたお客さまの声は、カスタマーサービス部で集計・分析し、タイムリーに関連部門へ共有することで、故障抑制や遊技機の操作性向上など、開発部門や生産部門のものづくりに活かされています。

■ お客さまの声にお応えする仕組み・体制（遊技機事業）



製品・サービスの安全と品質保証

製品・サービスの安全と品質保証

■ 品質保証体制

E セガ・インタラクティブでは、営業、開発などのラインから独立した立場の品質保証部が、品質保証規程に基づいて製品やサービスの安全性と品質を一括して管理することで、体制の強化を図っています。特に製品の安全性については、自主基準並びに業界団体 (JAIA^{*}) のガイドラインに準拠し、安全管理を徹底しています。また、開発や生産、営業、品質管理などの各部門の関係者が集まり、製品仕様・設計仕様・量産仕様・量産判定の4つの観点で製品を評価するデザインレビューを実施しています。このほか、さまざまな安全管理手法を用いて製品のリスクを評価するPL診断もっており、さらに出荷判定会議で出荷の最終的な判断を議論するなど、厳しい基準を満たした製品のみを市場にリリースしています。

※ JAIA：一般社団法人日本アミューズメント産業協会

■ AM機器の品質保証全体フロー概略



※ DR=デザインレビュー(設計審査)

■ お客さまの声を活かす仕組み



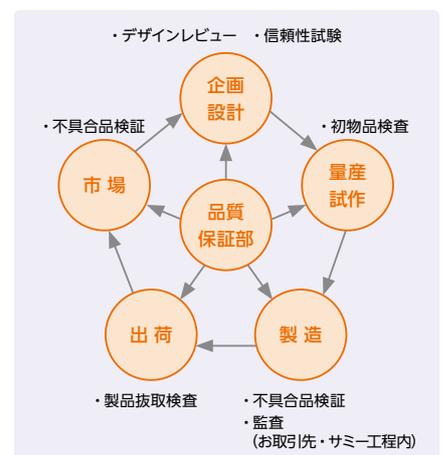
遊

サミーでは積極的な創意工夫と効果的に改善を行う品質保証活動により、安全で良質な製品やサービスを提供しています。また、人体の安全にかかわる「重要不具合」ゼロという目標を設定し、実現のための施策として以下の活動を行っています。

- ① 品質マニュアルの作成や品質記録の管理
- ② お取引先における4M管理チェックや監査・指導
- ③ 生産時における工程監査や高温環境下での製品打込み検査
- ④ 可動役物の検査仕様の適正化と寿命試験による評価検証
- ⑤ 開発・営業・生産部門との品質に関する連携

これらの活動により、「重要不具合」ゼロの目標を達成しました。

● 品質保証活動(遊技機事業)



健全に楽しんでいただくための取り組み

製品・サービスへの表示とラベリング

E セガゲームスでは、家庭用ゲームソフトの製品パッケージや取り扱い説明書などに関して、お客さまに安心して製品やサービスをご利用いただけるよう、説明法規制や業界団体が定めるガイドライン・社内規程に準じて、分かりやすく適切に表示

することを徹底しています。また、各種製品における利用対象範囲の明確化や倫理問題にも積極的に取り組んでおり、各国の倫理審査結果に従った表示を行っています。日本においては、CERO*に基づく対象年齢表示に加え、独自の自主基準も表示しています。またCEROの審査を通じて得たノウハウを蓄積し、事例をもとにした9カテゴリー、26項目のガイドラインを策定するほか、イントラブログを通じて国内外の倫理的な自主表現に関する最新事例を随時発信することで、社員の意識向上を図っています。

※ CERO：特定非営利活動法人コンピュータエンターテインメントレーティング機構



適正なコンテンツ利用のための整備

E 遊 スマートフォンやタブレット端末向けコンテンツを提供するエンタテインメントコンテンツ事業のセガゲームス並びに遊技機事業のサミーネットワークスでは主に、未成年者の過度なゲーム利用や課金の問題に配慮し、国内向けのほぼすべてのタイトルで年齢認証による月間の課金上限を設けています。また、有料で販売しているポイントなどを使用して遊ぶガチャについては、入手できるアイテムのレアリティごとの、もしくはアイテムごとの入手確率を明記することを社内ガイドラインで定めるなど、曖昧な表現による過度な期待や、それによる過課金を防ぐよう努めています。いずれも業界団体のガイドラインに準じたもので、今後も、利用者の皆さまが安心して楽しめる健全なゲーム環境づくりに努めていきます。

不正防止対策

遊 遊技機の射幸性の抑制と不正改造の防止を主な柱とした「風適法施行規則等の改正」(2004年7月施行)を受けて、遊技機事業では、不正な方法で利益を得る、いわゆるゴト行為を未然に防ぐために遊技機不正対策グループを設置し、継続的に市場情報を収集し不正に強い遊技機づくりに取り組んでいます。複雑化する不正改造に対しては、遊技機の流過程を把握することで、不正に改造された遊技機そのものを市場から根絶していく取り組みを進めています。

また、一部市場に流布している根拠の無い不当な攻略情報に対し、サミーのWEBサイトや小冊子などで注意を促すなどの対策を図っています。



倫理・社会的な配慮

E セガ・インタラクティブでは、JAIAの制定する「健全化を阻害する機械基準」の運用規程を遵守し、製品化前の社内検証において、過度に残酷な表現やお客さまを不快にさせるような表現が無いかが、チェックを行っています。

遊 サミーでは社内の監査機関である倫理委員会を設置し、一定の倫理基準や社会ルールなどを満たした遊技機を開発しています。また、独自のガイドラインを策定し、犯罪行為を誘発、または著しく射幸心をそそるおそれのある内容などが演出に含まれることのないように管理しています。のめり込み防止(射幸性に関する研究協力含む)に関する取り組みは統合レポート「社会関係資本」の「規制」の項目をご参照ください。

依存症対策

E 世界保健機関(WHO)年次総会(2019年5月)において、オンラインゲームやテレビゲームの過度なプレイによって、「ゲーム依存症」が新たな疾患として認定されました。

エンタテインメントコンテンツ事業部門では、射幸性が高く高額課金につながるような「ガチャ」に関して、未成年者の過度なゲーム利用や課金の問題に配慮し、一部タイトルで年齢認証による月間の課金上限を設けるほか、社内ガイドラインを定め、曖昧な表現による過度な期待や、それによる過課金を防ぐよう努めています。

遊

遊技業界では、2003年の「ぱちんこ依存問題研究会」の発足を契機に「のめり込み」に関する議論に乗り出しました。2006年には、業界団体の支援によって「リカバリーサポート・ネットワーク(RSN)」が設立され、公的機関と連携を取りながら問題解決に向けた取り組みを進めており、啓発活動や電話相談などの幅広い取り組みを行っています。

このほか業界では、使用金額に上限を設定する「自己申告プログラム」や、全国各店舗で依存問題に関する相談に応じる「安心パチンコ・パチスロアドバイザー」の配置も進めています。2017年1月には、遊技産業14団体(総称：パチンコ・パチスロ産業21世紀会)が「パチンコ・パチスロ依存(のめりこみ)問題に対する声明」を発表し、業界横断的に「のめり込み」対策に取り組むことを表明。同年11月には、RSNへの支援強化を柱とする依存問題対策強化に向けた決議を行いました。当グループもこうした取り組みを主導し、業界の健全な発展に貢献していきます。



依存症ポスター

安心安全なIR 施設の開発・運営を目指して

■ **ギャンブル依存症についての産学共同研究を開始**

R セガサミーホールディングスと、国立大学法人 京都大学は、ギャンブル行動の遷移に関するデータの収集と分析を通じて、ギャンブル依存症のプロセス研究*を産学共同で行います。

本研究は、実際に営業中の海外カジノ施設におけるプレイヤー(日本人を含む)のプレイデータを収集・分析することにより、人が危険な賭けに至る前の兆候を明らかにすることを目的として実施します。セガサミーでは、本研究成果と結びつけることにより、依存症の兆候がみられるプレイヤーを早期に発見し、深刻化を未然に防ぐ仕組みの確立を目指します。あわせて施設利用時における自制・抑制を促す施設オペレーションを確立することで、啓発・予防から医療機関などによる治療との連携まで一貫した体系的なギャンブル依存症対策の構築を目指します。

* 本研究は、京都大学 こころの未来研究センターにおいて、2021年3月まで共同研究を実施予定

おもちゃ大賞 2019

前年度ヒットセールス賞、大賞2品含む、最多6商品受賞

セガトイズは、1991年の開業以来、国内外において、小さなお子さまからお年寄りまで、安全で心から楽しんでもいただけるエンタテインメントをお届けしています。世界中の人々に「楽しい時間」と「絆」を提供するという強い想いのもと、玩具だけでなく、飲食施設や様々なキャラクターなどを通して、今後も、新しい感動体験を提供し、さらなる進化・成長を続けていきます。



Designed & ©2018 Worlds Apart Ltd. All Rights Reserved. ©SEGATOYS

日本おもちゃ大賞2019 前年度ヒットセールス賞
WHO are YOU?(ふーあーゆー)

日本おもちゃ大賞2019 イノベティブ・トイ部門 大賞
夢ペット 産んじやったシリーズ
ねこ産んじやった! / いぬ産んじやった! / うさぎ産んじやった!

日本おもちゃ大賞2019 エデュケーショナル・トイ部門 大賞
テレビにうつって! リズムでえいごワンダフルチャンネル

日本おもちゃ大賞2019 共遊玩具部門 優秀賞
いらっしやいませ! アンパンマンコンビニ

日本おもちゃ大賞2019 コミュニケーション・トイ部門 優秀賞
動く絵本プロジェクター
ドリームスイッチ

日本おもちゃ大賞2019 共遊玩具部門 優秀賞
はじめてプログラミング!
どの道とある? アンパンマンドライブカー

©やなせ・F・T・N

お取引先とともに



グループCSR憲章

私たちは、お取引先と公平・公正な関係を保ち、互いに切磋琢磨し、良きパートナーとして、共に感動体験を創造し続けます。

グループ行動規範

「公正な関係」「公平な選定」

- (1) お取引先との関係は、常に清廉・透明・公正なものとし、もたれ合いや癒着と誤解されるような行動は、一切行いません。
- (2) お取引先との関係において優越的地位を濫用した不当な不利益を及ぼす取引^{*}は行いません。
- (3) お取引先の選定については、信用度、技術力、開発力、価格、環境への対応力等を総合的に考慮し、公平かつ明確な基準で判断します。
- (4) グループ会社とも、透明で公正な取引を行います。

「接待・贈答」

- (5) お取引先に接待・贈答を行う場合は、社内で定められたルールに従うだけでなく、社会的常識に照らし合わせ、節度を保ち、適切に判断し、実行します。

「個人利益」

- (6) お取引先とは、立場を利用して利益や便宜の供与を受けるなどの個人的利益の追求を行いません。

^{*} 私的独占の禁止及び公正取引の確保に関する法律(独禁法)、下請代金支払遅延等防止法(下請法)等をいう。



「分かりやすい説明」で信頼関係を築き お客さまに納得と安心感を

ゲームの商品をご案内する際、その場で最初から最後までプレイしていただくことが難しいため、どのような内容なのかということに関し、お取引さまは私たち営業の説明や感想でしか判断することができません。ゲームの内容をしっかりと把握した上でご説明し、お取引さまが納得して発注できる形を作ることが大切です。その上で、ゲーム内容や市場動向の理解はもちろん、お取引さまとの信頼関係を築いていくことが何より重要だと考えます。2019年10月発売の「ペルソナ5 ザ・ロイヤル」では、作品の内容については太鼓判をいただけていましたので、ターゲットやプロモーションの戦略を分かりやすく説明し、確実に売れるという安心感を与えるよう心掛けました。今後もお取引さまとの信頼関係を深め、アトラスタイトルへの信頼も得ていきたいと思っております。



ATLUS

(株)アトラス
セールス&ミュージックビジネス部
セールスチームチーフ

三崎 康世 (Misaki, Yasuyo)



キャッシュレス化の流れに、 お取引先さまとWin-Winの関係構築へ

ゲームセンターで遊ぶお客さまがパブリック電子マネーでゲーム料金の支払いができるよう、アミューズメント機器に電子決済機能を組み込み内蔵化するプロジェクトでマネジメントを担当しています。このプロジェクトが立ち上がったのは、TFペイメントサービス社が開発・展開する決済ソリューション「シンカクラウド」が日本市場で実績を上げていたことが大きなきっかけでした。内蔵化を進めることでオペレーターさまの初期導入費用を下げ、全国のオペレーターさまとの契約を取り次ぐ加盟店開拓業務での提携により、電子決済の普及を後押ししています。同社が提供するオペレーターさま向けのPOSサービスにアミューズメント機器として準拠することで、業界標準化にも貢献しています。このように、同社のビジネス拡大に寄与しながらWin-Winな関係性の中で協業を進めています。キャッシュレス決済に世間の注目が集まる中、プロジェクトの成果がお客様にどれほど受け入れられていくのか、一歩先を見据えながら新たな施策を検討していきたいと思えます。



(株)セガ・インタラクティブ
技術本部 AMインフラ研究開発部
技術推進セクション・
セクションマネージャー

阿部 輝仁 (Abe, Teruhito)

お取引先さまの信頼に尽くし、 公正を徹底的に追及

現在、私はマカオのカジノオペレーターをお客さまとして、営業の業務を行っています。カジノ市場は何よりも信頼が大切であり、ゲーム画面上の表現をはじめ、プレイヤーがルールを理解できるか、意図しない挙動が起こらないか、製品を導入する前に一丸となって議論し、時にはお取引先にプレイヤーへの説明スタッフをつけていただいたり、開発部へ依頼してソフト修正を行うなど、公正であることを追求しています。

カジノオペレーターは政府機関へ製品の詳細や稼働状況を報告する必要があり、弊社にソフトプログラミングに関する非常に細かな質問や機器の公平性に関する質問などが寄せられます。これら一点一点すべてに迅速かつ正確に答えていくことで、お取引先はプレイヤーや政府機関から信頼され、それがお取引先からの我々セガサミークリエイションへの信頼へと変わっていきます。

我々の信頼のためには、“お取引先の信頼に尽くすこと”、と信じてこれからも誠実に向き合いたいと思います。



セガサミークリエイション(株)
営業本部 営業GR

藤本 勝大
(Fujimoto, Katsuhiro)

CSR調達研修

英国で「現代奴隷法」の制定がなされ、児童労働や強制労働などの人権侵害問題の法規制が進んでいます。エンタテインメントの業界もこれら人権侵害問題と深い関わりがあり、グループ企業7社の調達、購買関係者を対象にCSR調達研修を実施しました。2018年度は4回開催、100名が受講し、講義「CSR調達～サプライチェーンへのCSR浸透～」、カードゲーム「GAME OF CHOICE」を通じて理解を深めるとともに、セガサミーグループの一員としての社会との関わり方について考える機会を創出しています。

2018年度の開催実績

企業名	開催日	参加者数(名)	対象者	
7社合同 (SSC、SAMMY、SIC、SE、 TOYS、SLS、DL)	2019年	2月14日	22	調達、購買関係者
	2月22日	36	調達、購買関係者	
	2月26日	22	調達、購買関係者	
	3月5日	20	調達、購買関係者	
2018年度計	計4回	計100名		

CSR調達研修プログラム

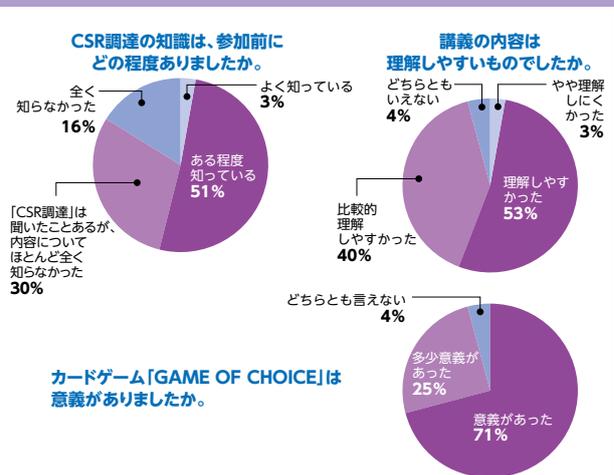
- 15:15 開会、研修趣旨説明
- 15:30 [講義]
「CSR調達～サプライチェーンへのCSR浸透～」
- 16:30 休憩
- 16:40 カードゲームによるグループワーク
- 17:40 受講アンケート記入
- 18:00 閉会

※ 講師&ファシリテーター：CSR・SDGs推進室

研修の様子と受講後アンケート

CSR調達研修では、まず講義で「CSR調達～サプライチェーンへのCSR浸透～」について理解を深めます。その後カードゲーム「GAME OF CHOICE」を通じて、企業、消費者、小売店、コミュニティ、Tier1サプライヤー、NGO、株主のキャラクターになりきって、「あなたは企業の代表者だったら、どう動くのか？そしてあなたはサプライチェーンのステークホルダーだったら、どのような行動を取るか？など、あるリスクに対する行動を選択し、選定理由についてディスカッションしました。グループ間の調達、購買の理解や交流ができるため、90%以上の方が「意義があった」と回答しています。

アンケート集計



受講者コメント

- 各々の立場になりきるにより、当事者意識が理解度を深めた。
- 「現代奴隷」という単語に馴染みがなかったので、興味を持つきっかけとなるのが良かった。取引先のその先にも意識して仕事しようと思った。
- 社員間の交流が有意義だった。CSRの意味が良く理解でき、仕事に責任と楽しみをもって取り組みたいと思った。
- 日々意識しているが、改めて重要なことと理解できました。
- 各発言者が明確化されており、企業に勤めている上で、立場を変えてやるのは理解を深めるのに良かった。
- 企業としては、CSR問題が発生した場合、すべてを丸く収めることはできない。問題が発生しないように事前に対応が必要。

公平・公正な取引の徹底

お取引先への要請事項

「セガサミーグループ・サプライチェーンCSR調達ガイドブック」にそって、以下の項目に対する取り組みをお取引先へ要請しています。

- I. 労働
非差別・人権尊重、賃金、労働時間、団結権、児童労働禁止
- II. 環境
化学物質管理、環境影響の最小化、3R、廃棄物の適正処理と削減
- III. 安全衛生
職場の安全衛生対策、労働災害・労働疾病、健康管理
- IV. 品質・安全性
製品安全性の確保
- V. 公正取引・倫理
汚職・贈収賄、優越的地位乱用等の禁止、情報提供、知的財産、輸出管理
- VI. 情報セキュリティ



「セガサミーグループ・サプライチェーンCSR調達ガイドブック」

https://www.segasammy.co.jp/japanese/media/file/pr/commu/csr/20141101_supplychain_csr.pdf

▶ 調達・購買におけるCSR活動の推進

E 2015年度より「セガサミーグループ・サプライチェーンCSR調達ガイドブック」に対するご理解と実践をいただくことを取引の際の基本契約書に盛り込んでいます。既存のお取引先についても契約書の更新をお願いしており、概ね85%で再締結が完了しています。

遊 遊技機事業では、「生産購買外注管理規程」など各種規程に基づき、お取引先の評価・選定を行っています。新規取引開始の際は所定の審査を行い、相手先や外部調査機関から入手した情報をもとに適正性を判断し選定しています。継続

監査にあたっては、毎期内容を見直し、お取引先においては、紛争鉱物、児童労働、公正取引などについて質問事項を記載したアンケートフォームをお送りし、セルフチェックを実施していただきました。2018年度は、47社を対象に実施しました。対象となる項目については、重要性をご理解いただいた上で、しっかりと取り組んでいただけていることを確認しました。引き続き、CSR調達の考え方については、継続監査を実施する際、お取引先に説明し、ご理解をいただけるよう活動していきます。

▶ 下請法遵守体制の強化継続

遊 下請法の遵守をはじめとしたコンプライアンス体制の構築と運用を最重要事項と捉え、社内教育の強化を図っています。例年11月に設定されている下請法強化月間における講習会への参加とその内容(変更点他)の水平展開をグループ会社の関係部門へも実施しています。

また、お取引先との相互信頼と清廉性に則った健全な取引を維持していくことを目的に、相談窓口として社内外に「セガサミーグループ企業倫理ホットライン」を設置しています。

なお、相談を受けた場合は、お取引先が不当な扱いを受けることがないよう中立的な立場であるセガサミーホールディングスが対応し、担当役員が責任を持って対処します。

アミューズメント(AM) 資材調達方針

[基本姿勢]

1. 当社のAM資材調達活動にあたる全ての社員は、法令・社会規範を遵守し、「セガサミーグループ行動規範」及び各種社内規程に則り良識ある行動をします。
2. 当社のAM資材調達は清廉・公正を旨とし、お取引先に対して公平かつ誠実に対応いたします。
3. お取引先とは、公正な取引のもと信頼関係構築に努め、協力して技術・品質の向上、経済性・効率性を追求し、相互繁栄を目指します。

▶ 児童労働・強制労働の禁止

E 主に海外の委託工場などでの児童労働および強制労働の禁止についての取り組みを進めています。プライズ商品の調達に関しては、セガ・インタラクティブでは、購買部門および品質管理部門が合同で2ヶ月に1回、製造委託先の工場を訪問し、現場確認を含む当グループ社員および第三者による工場監査を実施しています(サプライヤー監査、カバー率約92%)。監査の結果、リスクが高いサプライヤーはありませんでした。

セガ・エンタテイメントでは、アミューズメント施設用のプライズ商品について、主要調達先への奴隷労働や人身取引に関するアンケート調査を実施し、管理状況の確認などを実施することによってリスク低減に努めています(サプライヤー監査、カバー率80%)。

玩具商品の調達に関しては、セガトイズでは、児童労働および強制労働に関する法令遵守条項を盛り込んだ製造委託基本契約書の再締結の推進、購買部門社員や現地担当者の人権に関する研修の実施を行うとともに、第三者機関による製造委託先企業の労働基準順守証明書の取得状況のチェックなどを実施しています(サプライヤー監査、カバー率96%)。

また、2019年2月から3月まで計4回、購買および調達担当者99名に対してCSR調達に関する研修を実施しました。2019年度は海外の拠点担当者についても研修の実施を計画しています。

▶ 英国現代奴隷法への対応

E 2015年3月に制定された英国現代奴隷法(Modern Slavery Act 2015)を受け、セガサミーグループの声明をホームページに開示しています。

 英国現代奴隷法に関する声明(仮訳)

https://www.segasammy.co.jp/japanese/media/file/pr/commu/csr_library/uk_modern-Slavery-Act-statement_jp.pdf

お取引先とのパートナーシップ

▶ サプライヤーとの連携

E セガ・インタラクティブでは、開発方針、調達方針などを説明するサプライヤーミーティングを開催し、環境配慮や品質への取り組み課題を共有するなど、サプライヤーとの連携強化に努めています。2018年度は85社143名のお取引先にご参加いただき、うち96%から「有益だった」との回答をいただきました。



2018年度サプライヤーミーティングの様子

▶ 協力会社との合同品質会議

遊 ユニット組立担当企業を対象に年1回の合同品質会議を実施しています。2019年2月の当会議では対象7社中全社(13名)に参加いただき、主に「パチスロ蒼天の拳」量産後の振り返りを通じて今後の製品開発に意見反映させる仕組みを提案しました。パートナー参加型のものづくり体制を再構築し、今後もQC(品質管理)を主軸に連携強化を図ります。

■ 合同品質会議の開催実績(2019年2月)

			合計
協力企業	参加社数(社)	7	30
	参加人数(名)	13	
サミー	参加人数(名)	17	



合同品質会議(2019年2月)

社員とともに

1 員外をなくそう



5 ジェンダー平等を
実現しよう



8 働きがいも
経済成長も



10 人や国の不平等
をなくそう



グループCSR憲章

社員一人ひとりの創造性とチャレンジ精神がグループ発展の源であり、最大の財産です。私たちは、社員がもつ限りない可能性を最大限発揮できる企業文化を育み、ともに成長していきます。

グループ行動規範

「職場環境の整備」

- (1) 社員の安全と健康に配慮し、安心して勤務できる職場環境を構築します。
- (2) 社員が個々の能力を十二分に発揮し得る、「働き甲斐」「やり甲斐」のある柔軟性に富んだ会社になります。

「ハラスメント」「差別」

- (3) セクシャルハラスメント、パワーハラスメント、プライバシー侵害等、職場環境を乱す行為は行いません。
- (4) 人種・信条・性別・年齢・障害・学歴・門地等を理由とした、雇用機会や待遇の均等を損ねる差別行為は行いません。

「セガサミーカレッジ開校！」

2018年9月、セガサミーグループで働く仲間の学ぶ意欲を尊重し、セガサミーらしいリーダー育成を目指す「SEGASAMMY College」を開校しました。各種ビジネススキル講座や、他業界の方を招いての講演会など、さまざまなコンテンツを展開しています。

開校から半年で約1,400名に及ぶグループの仲間たちが肩を並べてともに学びましたが、どの講座でも会社の壁を越え、受講者間で活発なコミュニケーションが生まれており、大変嬉しく思います。また、自ら講師に立候補する「寄付講座」も増え、学び・育てる文化の醸成に向けた胎動を感じています。

私どものグループミッションである「感動体験を創造し続ける」の実現に資する人材成長の場として、またグループ従業員がともに学び刺激を受け合う場として、今後も『SEGASAMMY College』は進化し続けていきます！



セガサミーホールディングス(株)
グループ代表室 人財開発部
三原 真梨奈 (Mihara, Marina)

SEGASammy
HOLDINGS

ダーツの魅力の世界に伝えみんなをハッピーに

我々オンラインサービス企画推進チームは、世界中の人に「ダーツ」の魅力を伝え、触れるキッカケを創るチームです。

1つ目に、グループ各社とのシナジーを活かしたタイアッププロモーションでの世の中への興味喚起。2つ目に、企業にいる、ハタラクダーツプレイヤーに向け、OFFICE DARTSLIVE (DARTSLIVEマシン企業設置) を通じたダーツでつながるFace To Faceのコミュニケーション創り。ダーツライブ社の企業哲学である「ヒトは、アソぶ。トモニ、アソぶ。」に沿ってスポーツとエンタテインメントの融合であるDARTSLIVEサービスを中心に、世の中に「スポーツエンタテインメント」を仕掛け、みんなをハッピーにしたいと思います。楽しいこと、面白いこと、大歓迎！我々チーム・ダーツライブにご期待ください。

チームメンバー

前列左から(3名)

- ・東 なな (Azuma, Nana)
- ・勝谷 真帆 (Katsutani, Maho)
- ・前田 大祐 (Maeda, Daisuke)

中列(1名)

- ・谷津 郁騎 (Yatsu, Yuki)

後列左から(4名)

- ・矢崎 雅人 (Yazaki, Masato)
- ・多久 輝 (Taku, Akira)
- ・加藤 康行 (Kato, Yasuyuki)
- ・竹之内 崇 (Takenouchi, Takashi)



(株)ダーツライブ
DLサービス戦略本部
オンラインサービス推進部オンラインサービス
企画推進チーム

竹之内 崇 (Takenouchi, Takashi)



サミー(株)
営業本部 営業企画部 プロフェッショナル
菅原 大介 (Sugawara, Daisuke)

「営業本部の遊技機業界の勉強会」

これまでは言葉にまとめずとも暗黙知として伝えられてきましたが、企業の成長とともに社員が増えたことで、さらなるナレッジマネジメントの必要性を感じていました。

連携するグループ会社からは、当社の製品(遊技機)に関して、ホールコンピュータが集計した稼働データの見方や規則改正解説の要望を頂戴し、また、規則改正や内規変更の影響下の営業活動において、新製品の訴求ポイントを的確に伝えるために、関係する皆さまと勉強会を始め、これまでに約160人に参加いただきました。

「今さら聞きにくい初歩的なことから現在進行形の問題まで幅広く知ることができた」「正しい知識を身に付けることができた」「難しい内容を非常に理解しやすく説明して下さって大変感謝しています」など多くのご意見をいただき、成長し続けるためには、結果のみならずプロセスも重要だとやり甲斐を感じています。

今後もばちんこ業界の“正しい知識”を社員と共有することで、より多くの方のお役に立ち、社会に貢献していきたいです。



TOPIC

「セガサミー そらもり保育園」開園

従業員の仕事と育児の両立支援を目的に2019年4月1日に企業内保育所「セガサミー そらもり保育園」を開園。園内には「セガの森」がある長野県南佐久郡南相木村のカラマツ材を内装に使用するなど子どもたちの好奇心を刺激し、豊かな創造性を育むことができる環境を演出しています。産休・育休明けのスムーズな職場復帰や多様な働き方を支援するとともに、子育てに携わる従業員がいきいきと活躍できる環境整備に取り組んでいきます。

※「ノース・つくし保育園(千歳市)」に続き、グループ内2園目の開園。

森をイメージした
保育ルーム



子どもの創造性を育む
教育環境

東京パラリンピック2020を目指して

シェラトン・グランデ・オーシャンリゾートのフィットネス「ジ・オーシャンクラブ」のプールで、56年ぶりに日本で開催される東京2020パラリンピックを目指して、日々トレーニングを重ねている前田一成さん（ジ・オーシャンクラブ会員）の指導を行っています。

今、前田さんをパラリンピックに出場させてあげることが最大の目標です。せっかくの日本開催でもあり、私自身も審判員として参加し、2人でパラリンピックの舞台に立つことができれば、こんなに嬉しいことはありません。

パラリンピックに出場するためには基準タイムのクリアなど、乗り越えなければならない壁がありますが、夢の大舞台に立てるよう、頑張っていきたいと思います。皆さんの応援をよろしくお願いいたします。

※ 宮崎県内の病院勤務時代、日本障がい者スポーツ指導員の資格を取得（2000年）して以降、様々な障がい者スポーツの取り組みに参加。日本水泳連盟B級審判員などの資格も取得。前田さんの出場する大会に帯同すると同時に大会の審判員も務める。



フェニックスリゾート(株)
ジ・オーシャンクラブ

川越 美希 (Kawagoe, Miki)



TOPIC

働き方改善のヒントを生み出す情報交流サイト「わくらぼ」を開設

セガサミーグループは2018年、個人個人の創意工夫による自発的な「働き方改革」を推進することを狙いとした情報交流サイト(イントラ)「わくらぼ」を開設しました。グループ各社の取り組みを集約・共有し、社内の様々な取り組み事例を発信することで、会社の垣根を越え「働き方改革」の共有が活発に行われています。

「わくらぼ」編集部より /

セガサミーグループの働き方改革が本格的に始動して2年。いざ「働き方改革を取り組もう!」と思っても何から手をつけていいかわからない。そんな時に誰かの“工夫(知恵)”をヒントにして、自分ならではの“働き方”“休み方”を考え、動いてみる。そんな個人やチームが行う小さい取り組みの積み重ねが、やがて大きな改善(改革)につながっていく、との思いから開設したのが働き方・休み方サイトの「わくらぼ」です。

サイト開設から1年半、「働き方改善7つのテーマ」の実現を目的とした“働き方”や“休み方”の改善事例を紹介しています。サイトの主役は現場(従業員)とし、働き方改善(改革)の一步を踏み出す際のヒントとなるサイトを目指しています。

各社の取り組みや個人の体験談(育児・介護との両立、副業体験)など、グループ内だけでなく、外部企業様との情報交換で得た“気づき”なども掲載、毎月更新をしています。

働き方改善7つのテーマ

- ① 長時間残業の更なる是正
- ② 業務の見える化・属人化の改善
- ③ フレックスや在宅勤務など多様な働き方の実現
- ④ 介護・育児の支援と、女性活躍
- ⑤ 健康指標管理の導入
- ⑥ 教育機会の提供による能力開発
- ⑦ 会社目標設定および人事評価制度への反映

人財の育成と評価

人事制度

E セガホールディングス、セガ・インタラクティブ、セガゲームスでは、社員の長期的なキャリア形成とプロ意識の向上のため、複線型人事制度を導入し、組織を率いていく「マネジメント職」と知識や技術を活かしていく「プロフェッショナル職」のコース選択を可能にしています。また、定期的に「従業員満足度調査」を実施し、社員の課題認識や期待値・不満度などを確認の上、モチベーションの向上に向けた各種人事施策へと展開しています。

育成環境面では、新入社員一人ひとりに対して公私両面のサポートを専任で行う「コーチ制度」を設けているほか、「新入社員フォロー研修」「2年目研修」など、若手社員の成長を支援する教育体系が整備されています。

評価・報酬面では成果や行動発揮に加えて時間生産性を考慮した評価／インセンティブを導入し、生産性の高い働き方を実現した社員に報いる取り組みを進めています。

遊 社員全員がプロ意識を持ちチャレンジし続けるために、「マネジメントコース」と「プロフェッショナルコース」の自己選択型の制度を整備しています。社員一人ひとりに求められる役割を明確化し、また成果貢献に応じた適正な処遇により社員のやる気と成果に報いることでパフォーマンスを最大限に引き出すことを目指しています。

また、人財育成については階層別研修に加えて、管理職に対する能力開発機会の提供を充実させマネジメント力の向上や公平な評価の実現についても強化を図っています。社内表彰制度では、2018年度の会長賞・社長賞は10案件63名が、社員のチャレンジをより奨励するための「積極進取賞」では33名が表彰されました。さらには、積極進取の精神でアイデアを会社へ提案する制度『やっちゃえG30』を2016年より発足させ、これまでの3年間で約450件の提案があり、うち55件が具体的な施策として実現しています。そのほか、社員満足度調査や、将来的にチャレンジしたい仕事の自己申告制度など、様々な施策を展開しています。これらの成果もあり、過去5年の離職率は約2%と、今後も社員がいきいきと働ける環境づくりを進めていきます。

多様性の推進

女性活躍推進

E 女性が十分に能力を発揮し、活躍できる環境を整備して企業の成長につなげるため、行動計画を策定して目標達成に向けて取り組んでいます。

セガホールディングス、セガゲームス、セガ・インタラクティブでは、2016年から2020年までの4年間で計画期間として、新卒採用における応募者の女性割合を30%以上とする目標を掲げ、性別にとらわれない公正な選考に向けたガイドラインの策定や、大学などと連携した女子学生向けセミナーを実施していきます。また、社員の育児休業後の復職定着率100%の実現を目標とし、休業中の方への情報提供や、子が3歳になるまでは育児短時間勤務であってもフルタイムと同様の給与を支給する福利厚生などを取り入れています。

遊 育児休業中の社員に対するキャリアと育児の両立支援を目的に、休業中のキャリアブランクを無くすための能力開発機会としてeラーニングを導入したり、会社の状況を把握できるようコミュニケーションツールの導入を行っています。また、女性社員が求めるキャリア開発施策について、自らが考え、よりニーズに合った施策を導入するために、女性社員による検討プロジェクトチームを立ち上げて活動を行うなど、能力アップ支援の取り組みを継続的に実施しています。

人権の尊重

ハラスメント撲滅への取り組み

E セガホールディングス、セガ・インタラクティブ、セガゲームスでは、すべての社員が気持ち良く働き、最大のパフォーマンスを発揮できるよう、ハラスメントの防止に注力しています。社内研修やイントラネット上で気軽にできるミニテスト、ケーススタディを利用し、ハラスメントに関する理解の徹底を図っています。また、役員および社員(受入出向者、アルバイト、派遣社員を含む)が不安や悩みを相談できる窓口を、相談内容によって選べるよう社内外に複数設置しています。

働きやすい職場環境の整備

ワークライフバランスの推進

E グループとして取り組んでいる「働き方改革」の一環として、セガホールディングス、セガゲームス、セガ・インタラクティブの3社に、2017年7月より「フレックスタイム制度」を導入しました。従業員一人ひとりの時間管理意識を高め、労働生産性の向上およびワークライフバランスの充実を目指しています。また、2018年7月より一部の副業を認める「JOB+（ジョブプラス）制度」を、2019年2月よりLGBTの社員に向けた支援制度を導入し、多様性を尊重した取り組みを進めています。さらに、セガホールディングスでは2019年4月より自宅等オフィス以外の場所で働くことを認める「在宅勤務制度」を導入しました。介護・育児・看護等の様々な諸事情と、仕事の両立の一助となる本制度により、安心して働ける環境を整備しています。

遊 フレックスタイム制度、2018年4月から正式導入した在宅勤務制度、育児、介護等の事情を抱えた方向けに短時間勤務者用のフレックスタイム制度を導入しています。また、JOB+制度の導入により、本業（サミーでの仕事）だけでなく、自身の経験値アップや自己実現ができる環境を整えています。

サミー川越工場では、生産計画を中期的に捉え、繁忙の狭間を積極的に有休取得し、労働時間にメリハリをつけた働き方を奨励しています。また、会社全体で推進している「テレワーク」に対しては工場関係従事者としての取り組み方を検討・推進するとともに、他本部員向けに川越地区内にサテライトオフィスを新設しました。埼玉県「多様な働き方実践企業^{*}」のゴールド認定のもと、県主催の女性活性化セミナーへ工場勤務の女性社員が参加し、働きやすい職場環境の向上・整備に努めています。

※ 多様な働き方実践企業：認定要件6項目のうち、要件を満たす項目数によって「プラチナ」「ゴールド」「シルバー」に区分されます。



労働安全への取り組み

遊 E 社員の健康と安全を守るため、安全衛生委員会を毎月開催しています。また、現場で発生する事故に対して、常に予防または改善することを徹底し事故件数をゼロにするための取り組みを進めています。万が一、現場で事故が発生した場合には、直ちに原因追究をするとともに、改善を行い再発防止に努めています。

サミー川越工場では、社員自らが身のまわりにひそむ危険要因をチェックし、都度改善する「6S^{*}パトロール」活動や、さらにセキュリティと節電の二つのSの観点を加えた「8Sパトロール」活動を行うなど、社員の健康と安全を守ることに力を注いでいます。

遊 2017年度は、安全衛生委員会を通じて2016年度に実施したリスクアセスメントの結果を踏まえ、工場建屋外周の一部に安全歩行帯を設置、工場内においては製品搬送ラインにガイドワイヤーを増設しました。また、工場独自の「安全基準」については、その内容をブラッシュアップし、当社生産現場の実情に即した基準（ガイドライン）へ昇華させています。このほか、営業担当者は自動車の安全運転を心がけており、無事故無違反期間が1年以上の場合に取得できるSD (Safe Driver) カードを年に一回発行しています。

※ 6S：整理・整頓・清掃・清潔・躰・セーフティー

健康管理

遊 E 大崎にグループ会社が集約したのを機に、セガホールディングスの健康管理センターとサミーの医務室を統合し、SSHDの健康管理センターを設置しました。産業保健スタッフが4名常駐し、勤務中いつでも相談できる体制を整え、より専門的な相談には内科、精神科の医師が交代で勤務することにより対応しています。

また、毎月実施している安全衛生委員会は、大崎勤務者が共通認識を持てるよう、SSHDを中心にグループ会社合同で実施することにしました。議事録や関連情報は各社の社内WEBサイトに掲載し、社員への周知・注意喚起に努めるとともに、まだ参加していない会社の加入を促進していきます。各社で個別に実施していたインフルエンザの集団予防接種やストレスチェック、課題となっている風疹対策についてもグループ全体での検討としていく予定です。

定期健康診断は実施率100%を目指し、巡回健診の継続、人間ドック受診料の補助などの支援を続け、安全衛生の観点から会社独自の基準を設け、健康管理面談を実施し、未病の改善、生活習慣病の予防に努めています。

フレックスタイム制度の導入で長時間労働面談対象者は減少してきていますが、長時間労働者に対して問診票を配布し、健康状態を確認するとともに、所属長への労働時間管理の徹底および休暇取得促進などを実施することで、グループ社員が健康でワークライフバランスのとれた生活ができるようにバックアップしていきます。

CSR研修

2013年度から、グループ企業の社員に向けてCSR研修を実施しています。2018年度は25回開催し、898名が受講。通算では127回の開催で、グループ18社の3,329名が受講しました。「社会と企業の共生」「セガサミーグループのCSR活動」という2つのテーマについて、講義やグループワークを通じて理解を深めるとともに、セガサミーグループの一員としての社会との関わり方について考える機会を創出しています。

2018年度の開催実績

企業名	開催日	参加者数(名)	対象者	
5社合同 (SSHD、SAMMY、SHD、 SGC、SIC)	2018年	3月27日	48	一般社員
		3月28日	49	
		6月14日	38	
		6月15日	49	
		6月21日	37	
		6月22日	38	
		6月27日	42	
		10月15日	34	
		10月16日	32	
		10月22日	33	
		10月23日	28	
	11月6日	33		
	11月7日	37		
	11月28日	37		
	2019年	2月4日	32	プロフェッショナル職
		2月6日	29	
		2月27日	30	
3月6日		27		
SSGE	2018年	4月10日	61	一般社員
PSR	2019年	1月10日	10	グループ新入社員
		1月11日午前	23	一般社員
		1月11日午後	13	
新入社員	2018年	11月8日	49	グループ新入社員
	2018年	11月9日	38	
	2018年	11月28日	51	
2018年度計	計25回		計898名	
2013年度からの総計	計127回		計3,329名	

CSR研修プログラム

- 14:00 開会、研修趣旨説明
- 14:15 講義①「社会と企業の共生」
講義②「セガサミーグループCSR活動」
- 15:15 休憩
- 15:25 グループワーク①(ワールドカフェ)
- 16:45 グループワーク②(ワールドカフェ)
- 17:20 発表
- 17:45 「私のCSR宣言」、「受講アンケート記入」
- 18:00 閉会

※ 対象によって一部内容が異なります

研修の様子と受講後アンケート

- CSR研修では、まず講義で「社会と企業の共生」「セガサミーグループのCSR活動」について理解を深めます。
- その後ブレインストーミングや討論によるグループワークを通じて、互いの意見や社会課題解決へのアイデアを共有しています。
- グループ間交流もできるため、研修受講後のアンケートでは、85%以上の方が「役に立った(楽しかった)」と回答しています。また、受講者の90%がCSRの重要性について理解を示し、91%以上の方が、CSRの取り組みと企業の持続可能性について関連が大きいと考えています。



受講者コメント

- すべての場面で貢献することができないが、自分達がやっていることが何を生み、何のためになるか、そして逆にどのように助けられるのかを深く考えられて良かったです。
- 自分が今まで感じていた以上にセガサミーグループが社会に提供している価値が多くあるんだということに気が付いたので、グループワークでのディスカッションは特に有意義に感じました。
- 社員間の交流が有意義だった。CSRの意味が良く理解でき、仕事に責任と楽しみをもって取り組みたいと思った。
- CSRというものの理解を深めることができ、これからも自分にできる貢献がないかいろいろと挑戦していきたいです。
- グループミッション、CSRについて理解が深まり、セガサミーグループ一員としての社会的意義を果たす使命感に駆られました。
- あらためて日々の業務が何になるべきか、つながるべきかそのように行動できているかを見つめ直すきっかけになりました。

人事・労務に関するデータ

対象範囲・集計方法

- 2016年度：国内16社、海外2社（社員構成のみ）、2017年度および2018年度：国内15社、海外2社（社員構成のみ）
- ※ 2018年度のカバー率：売上比率約9割以上、正規雇用人数比約7割以上
- SSHD/SHD/SIC/SGC/SE/SLS/TMS/TOYS/DL/SAMMY/SNW/BTF/JMS/JNEXT/PSR
- 海外：SOA (Sega of America, inc.) / SOE (Sega Europe Ltd.)

※ 略称は、P.02参照

● 社員構成

	2018(国内15社)			2018(海外2社)		
	合計	男性	女性	合計	男性	女性
社員数(名)	12,631	8,356	4,275	248	177	71
正規雇用	5,667	4,634	1,033	248	177	71
非正規雇用*	6,964	3,722	3,242	—	—	—
社員数うち外国籍	108	68	40	—	—	—
平均年齢(歳)	40.3	41.0	37.2	—	—	—
平均勤続年数(年)	12.5	13.0	10.0	—	—	—

※ 2018年度より非正規雇用にアルバイトを含めています。

● 障がい者雇用

	2016	2017	2018
雇用人数(名)	168	205	212
雇用率(%)	1.90	2.12	2.14

● 管理職・役員構成

	2016	2017	2018
女性管理職者数(名)	78	81	102
女性管理職比率(%)	6.7	5.0	6.6

2018年度の内訳

	合計	専門職級	課長職級	部長職級	執行役員級	役員級
役職者別人数(名)	1,550	325	845	251	47	82
男性	1,448	300	780	241	46	81
女性	102	25	65	10	1	1
女性比率(%)	6.6	7.7	7.7	4.0	2.1	1.2

※ 2018年度より役職者に専門職を含めています。

● 採用

	2016			2017			2018		
	合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性
新卒採用者数(名)	124	74	50	139	86	53	135	84	51
新入社員離職率(%) (入社3年後)	23.9	17.3	46.7	20.4	16.4	28.1	15.7	5.3	31.4
中途採用者数(名)	212	161	51	226	169	57	224	133	91
定年後再雇用者数(名)	43	35	8	43	40	3	57	50	7

● 労働安全衛生

	2016	2017	2018
労働災害発生件数(件)*	1	0	1
労働災害発生率	0.1	0	0.1

※ 労働災害発生件数=休業災害の件数

● 両立支援制度利用実績

	2016			2017			2018		
	合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性
産前・産後休業取得者数(名)	45	—	45	55	—	55	66	—	66
育児休業取得者数(名)	82	12	70	95	21	74	130	24	106
育児休業復職者数(名)	57	12	45	56	20	36	82	22	60
育児休業復職率(%)	—	100	90.9	—	100	98.6	96.5	100	95.2

※ 2016年度の男性の育児休業取得期間の内訳：
1週間以内7人、1週間～1ヶ月2人、1ヶ月以上3人

● ワークライフバランス

	2016	2017	2018
月平均時間外労働時間(時間)	17.3	21.9	19.7
有給休暇取得日数(日)	8.2	11.5	12.5
一般社員	—	12.2	13.1
管理職	—	9.3	10.5
有給休暇取得率(%)	46.2	63.7	69.5
一般社員	—	69.4	75.1
管理職	—	48.0	54.5
年間休日	125.1	124.1	125.8
ボランティア休暇のべ取得人数(名)	57	46	42
ボランティア休暇のべ取得日数(日)	92	70	101

注記

- 社員構成 非正規雇用
2018年度から契約社員(有期雇用)、アルバイト、パートを含め人数を算出しています。
- 平均残業時間
「働き方改革」を推進しており、2017年より裁量労働対象者についても可能な限り、在社時間等で残業時間に含めています。
- 有給休暇取得率
年間の有給休暇取得日数を年間の法定有給休暇付与日数で除して算出しています。なお、2017年より管理職と一般職に分けて開示しています。また一部グループ企業で採用している法定外有給休暇も加味しています。
- 年間休日
対象会社の年間休日を正社員の人数比で加重平均しています。

● 両立支援制度の例

育児

制度	SSHD、SHD、サミー等
育児休業制度	子が2歳に達した日以降も保育所に入所できない場合は、その後初めて到来する4月の保育所入所日まで
短時間勤務	小学就学まで最長2時間/日 小学3年生まで退勤時間を最長1時間短縮可

介護

制度	SSHD、セガHD、サミー等
介護休業制度	93営業日/名(介護短縮時間勤務含む)
介護短時間勤務	93営業日内で最長2時間/日
介護休暇	積立年休の保有日数を限度とし、長期介護休暇を取得可

株主・投資家とともに



グループCSR憲章

私たちは、グローバルな視点をもって事業を展開し、継続的な成長・企業価値の最大化を目指します。そして、適正な利益還元と適時的確な情報開示を通し、透明な経営を図り、株主・社会の期待に応えます。

グループ行動規範

「透明性の高い経営」「双方向コミュニケーション」

- (1) 法令その他のルールに則り、会社情報を適正かつ公正に開示し、経営の透明性の確保に努めます。
- (2) 株主の声に積極的に耳を傾け、双方向性のある対話型コミュニケーションに努めます。

「積極的かつ公平な開示姿勢」

- (3) 投資家の理解に資する会社情報の積極的な開示に努めます。
- (4) 全ての投資家と公平に接し、会社情報の偏在防止に努めます。

「適正な利益還元」「企業価値の最大化」「永续性」

- (5) 効率的な資産運用と、適正な利益還元を行います。
- (6) 世界の情勢や動向に常に目を配り、社会の期待に応えながら、企業価値の最大化と継続的な成長を目指します。

「インサイダー取引」

- (7) インサイダー取引に関する法令※・社内規程・ルールを遵守し、未公表の重要事実を厳格に取り扱います。

※ 金融商品取引法第166条等をいう。

VOICE



SEGASammy
HOLDINGS

セガサミーホールディングス(株)
財務経理本部

山根 絵美 (Yamane, Emi)

コミュニケーションを通じて、 株主・投資家の皆さまの信頼を

四半期ごとの決算資料作成、株主・投資家の皆さまとのコミュニケーション、株主通信をはじめとするコミュニケーションツールの作成などを担当しています。

IRの業務では、セガサミーグループ全体の業績や事業戦略、その背景などを深く理解し、迅速、正確かつ分かりやすく発信していくことが非常に重要です。併せて、株主や投資家の皆さまとのコミュニケーションを通じて、セガサミーグループがどのように評価されているか、何を期待していただいているかを理解し、社内に伝えて、皆さまの期待に応える会社を目指すサポートをすることも大切な役割と考えています。

これからも株主・投資家の皆さまと、多くのグループ企業との間で積極的かつ双方向のコミュニケーションを心掛け、信頼関係を築き、両者の間をつなぐ架け橋となるよう、一步一步努力を重ねたいと思っています。



株主・投資家への情報開示

IRポリシー

セガサミーホールディングスは、「IRポリシー」に基づき、金融商品取引法、その他法令および東京証券取引所の定める適時開示規則に沿って情報開示することはもちろん、経営方針や事業活動などの情報を幅広く提供することで、株主・投資家の皆さまからの一層の理解と信頼を得るための活動に努めています。また、法定開示、適時開示規則に該当しない任意開示情報についても、投資家の皆さまの投資判断に影響を与えないものは積極的に情報開示しており、東京証券取引所が提供するTDnetを通じて開示するとともに、当社WEBサイトでも開示します。

 **セガサミーグループIRポリシー**
https://www.segasammy.co.jp/japanese/ir/ir_policy/

株主・投資家とのコミュニケーション

▶ 開かれた株主総会の実施

より多くの株主の皆さまに定時株主総会にご出席していただけるよう、できるだけ集中日を避けるとともに、2019年度は、新本社の講堂(大崎ガーデンタワー)で開催し、184名の株主の方々にご出席いただきました。今後も、ご意見やご質問をいただきやすい仕組みづくり、スムーズな運営を心掛けていきます。

▶ IR活動

国内外における投資家向け説明会などの実施や、株主・投資家の皆さまからのお問い合わせにお応えするためのIRインフォメーションセンターを設置しています。また、国内外の機関投資家や証券アナリスト向け決算説明会を半期に1度開催し、四半期決算に関しては電話会議による説明会を実施しています。当社事業への理解を深めていただくため、証券アナリスト向けの施設見学会や勉強会なども行っています。個人投資家の皆さまと積極的にコミュニケーションを図るために、個人投資家向けイベントなどにも参加しています。



個人投資家向け説明会

● IR活動実績

	2017年度	2018年度
決算説明会(四半期毎、電話会議を含む)	4回	4回
スモールミーティング	1回	2回
個別ミーティング(国内)	117回	128回
個別ミーティング(海外)	195回	169回
事業セグメント別説明会(施設見学会を含む)	4回	3回
海外ロードショー(カンファレンスを含む)	7回(北米3回、アジア2回、欧州2回)	5回(北米1回、アジア2回、欧州2回)
国内カンファレンス	4回	4回
個人投資家イベント	2回	1回

IR活動に対する外部評価

2018年度にセガサミーグループのIR活動が第三者機関から表彰されたものは下記の通りです。

 **統合レポート**
https://www.segasammy.co.jp/japanese/ir/library/printing_annual/

- 2018年度 証券アナリストによるディスクロージャー優良企業選定 広告・メディア・エンタテインメント部門 1位 公益社団法人日本証券アナリスト協会(2018年10月)
- 2018年インターネットIR表彰 優秀賞受賞 大和インベスター・リレーションズ株式会社(2018年11月)
- Gomez IRサイト総合ランキング2018 銀賞受賞 モーニングスター株式会社(2018年11月)
- 2018年度 全上場企業ホームページ 充実度ランキング 総合ランキング23位 日興アイ・アール株式会社(2018年12月)

適正な利益還元

利益配分に関する基本方針

セガサミーホールディングスは、株主の皆さまに対する利益還元を経営の重要課題として位置づけ、利益に応じた適正な配当を行うことを基本方針としています。安定的な配当を実現すべく、配当は中間および期末の年2回とし、2018年度は、中間配当は1株あたり20円、期末配当は1株あたり20円を実施しました。

▶ 株主優待拡充のご案内

株主の皆さまの日頃のご支援に感謝するとともに、当社のサービスを体験していただくことを目的に、2018年2月より株主優待制度を導入していますが、このたび、導入後にいただいた皆さまからのご意見も参考に、株主優待を拡充しました。

基準日	保有株式数	①	②	③	④
3月末・9月末(年2回)	100~999株	1,000円分	—	—	—
	1,000~2,999株	1,000円分	10,000円分	—	—
	3,000~4,999株	1,000円分	20,000円分	—	—
	5,000株~	1,000円分	20,000円分	1枚	1枚

- ① 日本国内のセガゲームセンターのUFOキャッチャーまたは「セガキャッチャーオンライン」で利用できる利用券
- ② フェニックス・シーガイア・リゾート(宮崎県)で利用できる施設利用券
- ③ フェニックス・シーガイア・リゾート内、シェラトン・グランデ・オーシャンリゾート(宮崎県)1泊宿泊券1枚(1部屋大人2名まで)
- ④ [PARADISE CITY]内、[PARADISE HOTEL & RESORT](韓国・仁川)1泊宿泊券1枚(1部屋大人2名まで)

社会とともに

環境



グループCSR憲章

私たちは、企業市民として社会を構成する一員であることを強く自覚し、事業活動等を通じた社会貢献、芸術・スポーツなどの文化の発展支援、地球環境保護への取り組みを、積極的かつ自主的に行います。

グループ行動規範

「地域社会」

(1) 地域社会との連帯と協調を図り、地域に根ざす企業として積極的かつ自主的な交流に努めます。

「地球環境」

- (2) 資材調達から製造・流通・使用・リサイクル・廃棄まで、商品のライフサイクル全般にわたり地球環境への影響を考慮します。
- (3) 地球環境の保護のために、関係法令および各種規制を遵守するだけでなく、積極的かつ自主的な取り組みを検討・実行するよう努めます。
- (4) 地球環境に対する意識が高く、公私共に省資源・省エネルギーに努める人材を育成します。



シーガイア ビーチクリーンinーツ葉



R フェニックス・シーガイア・リゾートでは、宮崎県指定天然記念物である、アカウミガメおよびその産卵地の保護を目的とした海岸清掃活動「シーガイア ビーチクリーンinーツ葉」を2015年より実施しています。

毎年、地域住民の方やスポーツ少年団等の約100名の参加をいただき、産卵で陸地に向かうアカウミガメの障害となる、家庭ごみや流木などの回収を行っています。

清掃前にはNPO法人宮崎野生動物研究会会員で、宮崎市フェニックス自然動物園園長の出口 智久氏よりアカウミガメに関するお話をいただき、その生態を学ぶ場も設けています。



アカウミガメおよびその産卵地の保護を目的とした清掃活動

グリーン電力証書システムの導入



日本自然エネルギー株式会社
<http://www.natural-e.co.jp/>

E 2005年4月より日本自然エネルギー株式会社と契約し、年間100万kWhの「グリーン電力証書(マイクロ水力、バイオマス)」を購入しています。さらに、横浜市神奈川区に設置している風力発電機(ハマウィング)を中心に行われる横浜市風力発電事業に賛同し、2007年4月より、「Y(ヨコハマ)-グリーンパートナー」として協賛しています。2018年度の実績は212,848kWhでした。



日本自然エネルギー株式会社が風力・バイオマス・小水力などによるグリーン電力(自然エネルギー)の利用を証するマーク。

製品の環境配慮設計



E メダルゲーム機の「バベルのメダルタワー」において、従来製品「アラビアンジュエル」の消費電力と比較して55%削減するなど、省電力化への取り組みを継続しています。

これらアミューズメント機器は、現行製品の部品を新製品へリユース可能な設計にし、廃棄物抑制に努めています。また、整備・点検手順をマニュアル化して店舗で共有し、製品の長寿命化につなげています。アミューズメント施設では、日常整備の徹底などで機器の長寿命化を図るとともに、廃棄機器についてはセガ・ロジスティクスサービスで手分解し、100%リサイクルしています。同社では敷地内に産業廃棄物中間処理業者を招致し、処理コスト低減と不法投棄を防止するリサイクルシステムを全国展開し、「埋立ゼロ・単純焼却ゼロ」を達成しています。

使用済み中古機器の保管管理をセガ・ロジスティクスサービスが担当し、優良中古機器はリユース販売へ、不要機器は産廃処理の工程へ進めます。同社が敷地内に招致する産業廃棄物中間処分業者が素材別手分解を行い、機器の100%リサイクルを実施。アミューズメント機用の不要カードや用紙類、一部廃プラスチックは、代替燃料であるRPF(Refuse Paper&Plastic Fuel)となり、サーマルリサイクルにて熱回収されています。



遊 遊技機を構成している部品のリユース性を高めるため、設計・開発段階より部品・基板・ユニットの共通化を図り、3年前にリユースできる部品点数の目標値(パチスロ:50品目以上、ぱちんこ:15品目以上)を定めました。2018年度においては、どちらの目標値もクリア(パチスロ:約80品目、ぱちんこ:約30品目)し、2019年度からはリユース効率と品質向上に向け、中古遊技機を部品レベルまで細分解をせずユニット状態でのリユース化を推進していきます。また環境配慮の観点から、中古機の回収施策において従来の下取り条件を見直し、回収率が大きく向上しました(2016年度:47%→2018年度:74%)。

業界内においては、他メーカーと連携し、部品・ユニットのプラットフォーム化を図り、業界全体での環境負荷低減に向けた取り組みを進めています。

環境への配慮として、ほぼすべての遊技機で待機中のLED(装飾部など)の明るさを抑えるなどの消費電力を抑制するエコ機能を搭載しており、導入を開始した2014年度以前の機種に比べて消費電力の5%の削減につなげています。また、お客さまご自身で音量や明るさを調節できる機能を追加。このほか、パチスロ、ぱちんこにおいて鉛フリーはんだ部品使用率100%を達成しています。日本遊技機工業組合や日本電動式遊技機工業協同組合が、業界レベルで環境負荷物質の使用状況の把握と低減を目指す試みにも参加し、情報を共有しています。



パチスロ ディスクアップ
 ©Sammy



P 北斗の拳8霸王
 ©武論尊・原哲夫/NSP 1983,
 ©NSP 2007 版權許諾証YSE-020
 ©Sammy



バベルのメダルタワー
 ©SEGA

11年目を迎えた森林の里親活動

セガの森

E セガホールディングスでは、長野県が仲介役となって進める「森林(もり)の里親促進事業」の趣旨に賛同し、2008年4月より長野県南佐久郡南相木村と「森林(もり)の里親契約」を締結しています。その対象となる民有林約3,633ヘクタール(東京ドーム約773個に相当)を「セガの森」と名付け、CO₂吸収源となる森林の整備資金を一部提供することで地球環境保護に取り組んでいます。その整備によって、2018年度のCO₂吸収量は320.7t-CO₂でした。

また、地元の方々のご協力のもと、社員の地球環境保護に対する意識醸成の場としても活躍しています。2018年1月には、これまでの10年にわたる森林整備や地域交流などの功績が認められ、長野県森林づくり県民税活用の部にて長野県知事賞を受賞しました。

森林整備

日常的に「セガの森」を守り、育んでくださっている村民の皆さまにご指導いただき、森林整備の大切さや大変さを身をもって学ぶ機会として、植林などの森林整備体験を毎年秋に実施しています。



MAINTENANCE

南相木村は総面積の8割程度を山林原野が占め、その谷間を縫うように川が流れる自然豊かな村です。

●南相木村WEBサイト：<http://www.minamiaiki.jp/>

「セガの森」が誕生した、2008年から設置しているアドプトサイン(森林が「セガの森」であることを表す看板)。

南相木小学校の生徒の皆さんが、「自然と共に育む未来」をテーマに絵を描いてくださいました。



自然学習

自然を大切にしたい気持ちが次世代へと語り継がれていくことを願い、セガサミーグループ社員とその家族と一緒に体験できる、下草刈りや農作物の収穫、魚つかみなど、毎年趣向を凝らした自然学習イベントを夏に行っています。



EXPERIENCE

子どもたちも「もう1泊したい!」と名残惜しそうにしていました。友達もでき、2日目にはたくさんの野菜をいただいたり、本当に素敵な体験でした。

ブルーベリー狩りや魚つかみ取り、BBQ、花火などどれも家族全員とても楽しめました。

イベントが盛りだくさんで、全体を通して大満足のイベントでした!! 子どもたちも早速帰ってから夏休みの絵日記にセガの森を書いていました。

地域との交流

村民の皆さまから、「南相木村の歴史」、「山歩きのコツ」、「美味しい作物を育てる大変さ」などの様々なお話を通して、都会の日常では感じ取れない自然の厳しさや大切さを教わっています。



EXCHANGE

参加者の声

南相木村の皆さんとのBBQだけでなく、村の良さ、人の良さを感じることができて楽しかったです。

みんなで創ろうーツ葉の森林



R 「黒松の森宣言」を策定し、黒松林の環境保全活動に取り組んでいるフェニックス・シーガイア・リゾート(以下PSR)では、宮崎森林管理署主催「森づくり祭」に参加しています。2018年3月に、国有林でもあるーツ葉海岸(宮崎市佐土原町周辺)にて「みんなで創ろうーツ葉の森林」のテーマのもと、黒松(2000年度に植栽)の枝打ち作業を実施しました。2018年度は、地元行政や住民の皆さま、雨の中の作業にも関わらず林業関係者など約60名が参加するなか、PSRからも4名が参加し、地域一帯の活動に取り組みました。この黒松がかけがえのない財産として、次世代へ引き継がれるためにも、地域の皆さまとともに守り、育んでいきます。



廃プラスチック問題への対応

E ゲームセンターのプラスチック袋削減に向け、各店舗がそれぞれの地域・施設の基準に従って適切な分別を行い、産業廃棄物処理業者と契約を締結して処理することに努めています。また、製品梱包の簡易化によるごみ削減はメーカーの責任との認識に立ち、出荷時の袋を再利用するなど、最低限の梱包にとどめています。

ゲームセンターの使用電力の削減に向けた取り組み

E 施設照明のLED化を進めるとともに、改装店舗を中心に空調設備の入れ替えに取り組んでいます。また、電気供給会社を統一し、各店舗が最適な電気使用量になるように観察をしています。2019年3月31日現在、環境法令違反はゼロです。

環境に関するデータ

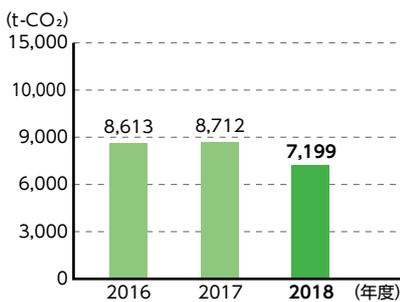
対象範囲

データ集計範囲 15社

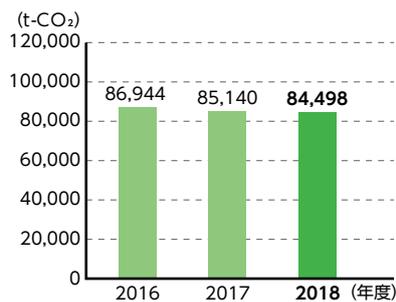
●SSHD/SHD/SAMMY/TOYS/TMS/SNW/PSR/SE/SIC/SGC/SLS/DL/JMS/BTF/JNEXT

※ 略称は、P.02参照

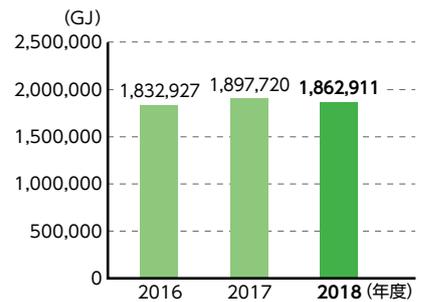
● CO₂排出量(スコープ1)



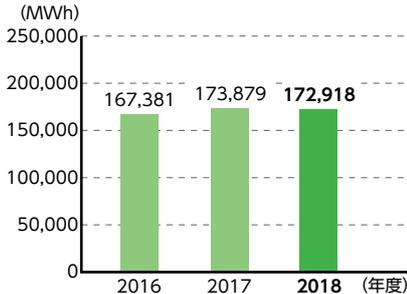
● CO₂排出量(スコープ2)



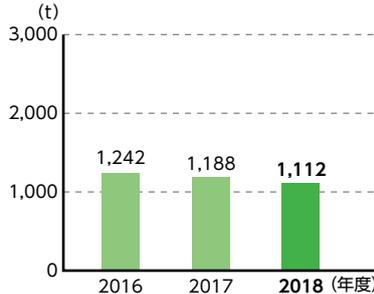
● 総エネルギー投入量



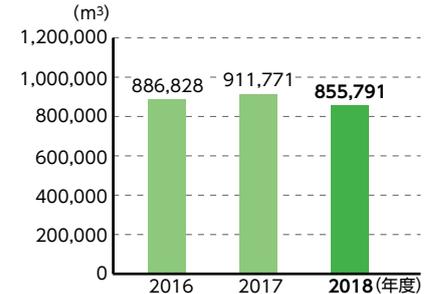
● 電力使用量



● 産業廃棄物排出量



● 水使用量



- ・集計データの一部に床面積による推計値を含みます。
- ・CO₂総排出量の減少は、燃料使用量及び電気使用量の削減が主要因です。
- ・購入電力のCO₂排出係数：各報告年度の前年度の電気事業者別の調整後排出係数を使用しています。

● サミー川越工場における環境配慮の状況

		2016年度	2017年度	2018年度	備考
遊技機のリサイクル率の推移	リサイクル率 (%)	97.21	95.99	95.00	ぱちんこ・パチスロ合算
	木材使用量 (t)	1,494	566	370	
環境配慮素材の利用	うちPEFC認証木材*	84t(5.6%)	38t(6.8%)	51t(13.8%)	

・接着剤は、水系接着剤を含めて川越工場では使用しておりません。

※ PEFC認証木材：PEFC森林認証プログラム(Programme for the Endorsement of Forest Certification Schemes)により認証され、第三者機関より持続可能な森林管理の認証を受けた森林より適切に調達された木材です。PEFC認証木材が使用できる製品の生産量が減少したことにより、使用量が減少しました。

社会とともに 社会貢献



グループCSR憲章

私たちは、企業市民として社会を構成する一員であることを強く自覚し、事業活動等を通じた社会貢献、芸術・スポーツなどの文化の発展支援、地球環境保護への取り組みを、積極的かつ自主的に行います。

グループ行動規範

「本業の繁栄」

(1) お客様に喜んでいただける商品・サービスの供により本来の事業の繁栄を常に目指し、納税・雇用の創出により社会に貢献することを忘れません。

「社会への貢献」[寄付]

(2) 事業活動を通じて社会に貢献するのみならず、芸術・スポーツなどの文化の支援にも積極的かつ自主的に取り組み、豊かな社会の実現に貢献します。

(3) 寄付を含む社会貢献活動を行う際は、税法・商法・政治資金規正法等の関係法令に従って定められた社内ルールを遵守して、公明正大に行います。



(株)ダーツライブ
ダーツライブサービス戦略本部
SPORTS推進部 SPORTS推進
チーム リーダー

長嶋 宣幸
(Nobuyuki, Nagashima)

「ダーツを大人の遊びだけに留めておくのはもったいない、オリンピックの追加種目を目指せる競技だ」と、私は真面目に考えています。その夢を実現しようと逆算して考えた場合、「ダーツ＝スポーツ」という世界観を幅広い世代に伝えていくことは必要不可欠です。その取り組みの中でしかるべき時に備え実績を積み上げておきたいと思い、ダーツ友達であった田崎先生に相談をさせていただきました。その小学校で見た、子どもたちがダーツで一喜一憂する姿を全国に広げていきたいと思えます。

ダーツを通して、
子どもたちの可能性を！

DARTS

次世代
育成支援

小学校のクラブ活動でダーツを実施

セガサミーグループでは、次世代育成支援の一環として、小学校での体験プログラムを実施しています。

小学4年～6年生を対象としたクラブ活動で新しい取り組みができないかと模索していた中、ダーツライブの長嶋さんからご提案をいただいたのがスタートのきっかけです。

子どもたちにダーツを体験してもらったところ、反応は想像以上で、2017年からクラブ活動の一環として取り入れました。現在は約20名が参加しています。準備から運営、片付けまで、子どもたちが行うことで、自発的行動につながっています。また、点数を手計算することで、計算力の向上に役立っています。

ダーツは学年も性別も運動の得意不得意も関係ありません。みんなが一緒にダーツをプレイし、高得点を出した子をみんなで称賛しあったり、競い合ったりと、子どもたちが夢中になっている姿から、当初の想像以上の効果を感じています。

JAPANプロダーツ プレイヤー
鈴木 未来 (Suzuki, Mikuru)

質問コーナーの時に子ども達がキラキラした目で夢をたくさん話してくれたのは、私にとっても素晴らしい経験となりました。違う世代同士の触れ合いが増えて、ダーツというものがいろいろな世代に認知され、憧れられるようにしたいなと思います。



横浜市立森の台小学校
(左)田崎 誠教諭
(Tasaki, Makoto)



社会支援

東京レインボープライド2019に協賛

SEGA Sammy

セガサミーグループはSDGs(持続可能な開発目標)の実現を通じて多くの個性が活躍できる社会の実現のためにダイバーシティを推進しています。その一環としてLGBTをはじめとするセクシャル・マイノリティの存在を社会に広め、「性」と「生」の多様性を祝福する「東京レインボープライド2019」に協賛いたしました。4月28日に行われたパレードにも社員家族40名が参加。すべての人が、より自分らしく誇りをもって、前向きに楽しく生きていくことができる社会の実現を目指します。



小学生向けプログラミング教室

SEGA Entertainment

文部科学省による2020年のプログラミング教育必修化にあたり、子どもたちに楽しく学んでいただくための「プログラミング・ワークショップ」を2016年から実施。2018年度はイベントを「セガラボ」としてショッピングセンターや公共施設などを中心に全国各地で実施。1,500名以上の小学生と保護者の方に参加いただきました。毎回すぐに満員御礼になるほどの人気です。現在はロボット、ドローンでの体験プログラムで実施しており、これからさらにコンテンツを増やしていく計画です。今後も、子どもたちの笑顔と感動を生み出す空間を創造し、社会へ貢献していきます。



UC Berkeley HaasとのIBDプロジェクト2019

SEGA Sammy

セガサミーグループは、カリフォルニア大学バークレー校 ハース・スクール・オブ・ビジネス(Haas School of Business, University of California Berkeley)との共同プロジェクト「IBDプログラム2019(International Business Development 2019)」に参画しました。

これは、同校の学生が世界中のクライアントとともに課題解決に取り組むもので、世界89ヶ国で468プロジェクトがなされた実績があります。

セガサミーグループは今回初めて参画し、同校の学生5名とともにプロジェクトチームを形成し、特定のタスクについてオンライン/オンサイトなど様々な手法で取り組みました。米国、コロンビア、インドなど多様なバックグラウンドを持つ同校の学生とセガサミーグループとの半年超にわたる共創の日々は、双方にとって刺激的なものでありました。



NPOとの協働による玩具の寄贈と玩具除菌活動

SEGA Sammy HOLDINGS

SEGA Toys

2009年度より毎年継続実施し10回目を迎えたこの取り組みは、認定特定非営利法人日本NPOセンターとともに非営利団体を選定し寄贈しています。

2018年度は、小児がんや小児の難病治療の家族の滞在支援をする認定NPO法人ファミリーハウスさまへ、病室のベッド上で過ごすお子さまとご家族に笑顔と勇気をお届けするためにセガトイズの商品124点を寄贈しました。

玩具を気持ち良くお使いになっていただけるよう、当社グループの社員が宿泊施設を訪問し、一般のボランティアの方々と一緒に玩具やぬいぐるみの除菌作業を継続し、行っています。今後もすべての子どもたちとその家族が笑顔になっていただく取り組みを展開していきます。



ファミリーハウスさまからの寄付報告書

子どもの食の支援を応援



グループの事業や施設利用を通して「子どもたちの成長を支えたい」という思いから、大崎本社がある品川区が活動を支援している「子ども食堂」へ野菜(じゃがいも・たまねぎ)を寄贈しました。フェニックス・シーガイア・リゾートの敷地を利用して、社員食堂用に栽培している野菜の一部を提供しました。今後も子どもたちの笑顔のために積極的に支援を継続していきます。



絵本を届ける運動 **SEGASammy**

紛争地域などに暮らす子どもたちへのエンタテインメントを通じた貢献を目的として、公益社団法人シャンティ国際ボランティア会の「絵本を届ける運動」に参加しています。オフィスや家にある不用品を回収し、その売却金で絵本を購入、現地語訳のシールを貼り、送付までの一連の活動を、グループ19社の社員で分担。2009年の活動開始から計2,472冊の絵本を現地へ送り出すことができました。エンタテインメントを通して、すべての子どもたちに生きる力や夢を持つことができる世界が訪れることを祈り、これからも同活動を行っていきます。



スポーツ・芸術・文化支援

『一般財団法人 セガサミー文化芸術財団』を設立



感動体験を創造し続ける企業として社会に貢献していくためには、文化・芸術分野の発展は不可欠の要素と考え、様々な作品や提案を広く社会で共有し、継続的に育んでいくことが何よりも大切なことと考えています。セガサミーグループでは、当財団を通じ積極的に文化・芸術活動の発展に寄与し、豊かな社会の実現を目指した活動を行っていきます。



世界トップクラスのダンスカンパニーNDT公演を13年ぶりに日本で実現in横浜(特別協賛)
写真提供：愛知県芸術劇場©Naoshi Hatori

パラ・ノルディックスキー日本チームの継続的支援



セガサミーグループは、特定非営利活動法人日本障害者スキー連盟を母体とするパラ・ノルディックスキー日本チームを継続的に支援しています。

同連盟は、障がい者およびその関係者がクロスカントリースキーやバイアスロンに親しみ、競技力の向上と同競技の振興と普及を図ることを目的とする組織です。「障がいのある方たちに、クロスカントリースキーやバイアスロンの楽しさを知っていただき、健康な体づくりを目指してほしい。パラリンピックなどを目指す障がいのある青少年に夢を与えたい」という思いで活動する同チームに、これからも支援を続けます。



『NPO法人日本障害者ゴルフ選手会』への支援



日本国内における障害者ゴルフを取り巻く環境は、一般社会への認知度の低さに加えて、障がい者への周知もまだ十分とはいえず、障がい者が自由にゴルフを楽しめる機会や環境も少ないのが現状です。障がい者ゴルフを通じ、障がいがあっても生き甲斐を持って安心して楽しく過ごすことができ、障がいをもつ子どもたちの未来に夢と希望を持てる社会づくりを行うNPO法人日本障害者ゴルフ選手会の活動を、寄付や告知活動などを通じて支援しています。



スポーツ・芸術・文化支援

「ジュニアスポーツフェスティバル」を開催

SEGASammy

「長嶋茂雄 INVITATIONAL セガサミーカップゴルフトーナメント」の開催地である千歳市、恵庭市、苫小牧市の小中学生を対象に、一流の講師が直接指導を行うスポーツ教室「ジュニア スポーツフェスティバル」を開催しました。今回で12回目の開催となる本イベントでは、2019年2～8月の期間中に14競技の教室を開催。1,500名を超える子どもたちが参加しました。苫小牧市で開催したサッカー教室では、2018年までコンサドーレ札幌でキャプテンを務めた、OBの河合竜二氏が「コミュニケーションの大切さ」「考えてプレーすることの大切さ」を子どもたちに伝えました。

このイベントがさらに地元で愛されるものとなるよう、これからも取り組みを続けていきます。



「セガサミーカップ 学童軟式野球大会」への特別協賛

SEGASammy

セガサミーグループは、東京都学童野球のレベルアップという大会の目的に賛同し、『セガサミーカップ学童軟式野球大会』に特別協賛しています。10回目の開催となった記念大会には16チームが出場。八王子市のセガサミー野球場と滝が原運動場で、321名の選手たちが熱戦を繰り広げました。また開会式当日には、セガサミー野球部現役選手による野球教室や、セガサミー野球部監督・コーチによる指導者向けの講習会など、野球教育のボトムアップの一助となるイベントも行われました。累計参加者数2,500名を誇るこの大会が、子どもたちの夢を叶えるステージになれるよう、今後も協賛活動を続けていきます。



「感動体験を創造しよう、その足で」

Sammy

2017年11月より発足した「SAMMY SOCCER PROJECT」は“感動体験の創造”というグループミッションに基づいて実施する「SAMMY × SOCCER = ~社会をもっと元気に、カラフルに。~」というサッカーの本質的な楽しさを親子に再認識してもらうためのプロジェクトです。

サッカーの本質的価値=見て楽しい、興奮・感動できる“ココロを動かすサッカー”を次世代の子どもたちを中心に伝え、“夢”の実現をサポートし、感動体験を創造・波及拡大の活動を続けていきます。2019年4月にはヤングアスリート(小学生)向けの「サッカークリニック」と保護者・初心者コーチ向けの「SSP QUESTION」というプログラムを同時開催し、のべ300名が参加しました。



「TOKYO JAZZ FESTIVAL」への特別協賛

SEGASammy

芸術・文化支援活動の一環として、世界中から一流のジャズアーティストが一堂に会する国内最大級のイベント「東京ジャズフェスティバル」への特別協賛を2002年の第1回開催より継続しています。「国境を越えて、世代を超えて」をテーマに毎年開催、良質な都市型音楽フェスティバルとして高い評価を得ています。



地域活動

ノルディック・ウォーキング



オアシスパークは、公園のフィールドを使ったソーシャルビジネスとして、2本のポールを使ったウォーキング「ノルディック・ウォーキング体験教室」を始めました。2018年12月に初開催し、2019年6月までに6回開催しました。認知症予防、健康づくりを始めたいシニアの方を中心に、のべ300名の方に参加していただきました。

参加者からは、「健康寿命を伸ばすためにも今後も継続してほしい」、という声をいただいています。今後は、月1回開催を基本に、健康志向のシニアの方が、コミュニティをつくり、公園でノルディック・ウォーキングを楽しむための環境づくりをしていきます。



地域活動

八王子市内の児童養護施設との交流

SEGASammy

セガサミー野球部は、拠点のある八王子市内の児童養護施設(3ヶ所)を、2010年より毎年12月に訪れ、クリスマスイベントとして、子どもたちと交流を図っています。2018年は野球部員ら9名が訪問。クリスマスプレゼントを贈呈したり、ティーボールで体を動かしたり、当日はたくさんの笑い声が溢れました。今後も地域との交流を図り、地域の方々に愛される野球部を目指していきます。



「小江戸川越ハーフマラソン2019」への特別協賛

Sammy

サミー川越工場の地元で毎年開催される「小江戸川越ハーフマラソン」に2010年の第1回開催から継続して特別協賛しています。

2018年11月の大会は、約10,000名のランナーが出場しました。



地域学生の職業観の醸成、マナー向上を支援

PHOENIX SEAGAIA RESORT

フェニックス・シーガイア・リゾートでは、地域の中学、高校、大学に協力し、学生の職業観の早期醸成、マナー向上のために社会体験研修や講話、見学会などを実施しています。

マナー講座(出前授業)では、社会体験前の事前講習や進学・就職を目指す学生の面接指導などを行い、見学会では、福祉科の高校生へバリアフリールームの見学や相手に与える印象をワンポイントマナー講座でお話ししています。

今後も、お客さまの快適な時間を創造するフェニックス・シーガイア・リゾートだからこそ伝え、提供できる支援をし、地域の成長発展に貢献していきます。



※ 2018年度実績
マナー講座(3件 390名)、
バリアフリー見学会(2件 60名)

佐倉市産業まつり「佐倉モノづくり Festa2018」へ出展

SEGASammy

セガ・ロジスティクスサービスでは、佐倉事業所の地元で開催される『佐倉モノづくりFesta』に毎年出展しています。2018年は「佐倉市民体育館」の常設ブース(市内企業が誇る多種多様な製品や技術の体験や展示)にUFOキャッチャーを出展し大勢の方々に体験していただきました。これからも地域社会の一員として活動していきます。



毎年夏に三浦海岸で開催している音楽イベント「OTODAMA SEA STUDIO」

WAVE MASTER

2019年は隣の津久井浜海岸(横須賀市)で5月に開催されるウインドサーフィン ワールドカップと連携し、海岸の新たな賑わいを創出します。地域活性化と海水浴以外の海岸の有効活用を目的とし、音楽・ビーチスポーツ・ビーチアクティビティを一度に楽しめる初の長期の試みは三浦市・横須賀市・神奈川県との理解と協力のもと実現しました。



SEGA**Sammy**

HOLDINGS

セガサミーホールディングス株式会社

CSR・SDGs推進室

〒141-0033 東京都品川区西品川一丁目1番1号

住友不動産大崎ガーデンタワー

TEL : 03-6864-2408

URL : <https://www.segasammy.co.jp>

統合レポートとの関連性

2018年より本レポートは「CSR BOOKLET」として、統合レポートに掲載されていない項目やCSRの観点でより深く報告すべき項目を掲載しています。社員のVOICEコーナーを充実させることで、セガサミーグループの事業や取り組み、働き方をより具体的に感じていただけるように構成しています。

統合レポートでは財務情報、特に投資家が重視する非財務のESG情報を加えて報告しています。

統合レポート
2018年度版



統合レポートについては、ホールディングスWEBサイトIRページをご覧ください。

WEB https://www.segasammy.co.jp/japanese/ir/library/printing_annual/

免責事項

本レポートには、セガサミーグループの過去と現在の事実だけでなく、社会情勢に関する予想や発行日時点での経営計画や見通し、将来予測が含まれています。これらの予想・予測は、記述した時点で入手できた情報に基づいた仮定ないし判断であり、諸条件の変化によって、将来の社会情勢や事業活動の結果が異なったものとなる可能性があります。読者の皆さまには、ご了承くださいませようお願い申し上げます。



だれにも読みやすい、
ユニバーサルデザイン
フォントを使用しています。